

# 第 5 次江東区地域福祉活動計画

## 【資料編】

### イメージ挿絵



社会福祉法人  
江東区社会福祉協議会



## 目次

### 資料編

1 ヒアリング .....	1
2 まちづくり話し合いひろば .....	26

### 別冊【本編】

以下の2次元コード及び江東区社会福祉協議会ホームページからご覧いただけます

<https://koto-shakyo.or.jp/overview/yosankessan/index.html>



# Ⅰ ヒアリング

## (1) ヒアリング集計

■個人ヒアリング：計 273 意見 / 92 人

【現状】に関する回答		174	
地域との関わりがあるという回答の、地域との関わり種別	51	町会・自治会活動	18
		ボランティア活動	4
		マンション内の活動	3
		近隣住民とのおすそ分け	2
		近隣住民との交流	2
		スポーツ活動	2
		ボランティア活動、町会・自治会活動	2
		会えば挨拶して話す	1
		おすそ分け、こどもの地域活動への参加	1
		気になるお宅に関する町会長への連絡	1
		近所付き合いはないが、こどもの親同士のつながりはある	1
		近隣住民と安否確認の方法を決めている	1
		近隣住民との挨拶、おすそ分け	1
		高齢者のサポート、一人暮らしの方への声かけ	1
		散歩中話しかけてもいい人を見極めた上での声かけ	1
		仕事上関わる自治会の方の相談支援	1
		消防団の活動	1
		地域へ美容師として出張する活動	1
		町会・自治会活動、長期不在時の声かけ	1
		町会には所属しつつも具体的な活動への参加はないが、近所の人とは挨拶をしたり、立ち話しをしたり等交流はある	1
町会防災部・消火隊での活動	1		
認知症の方のサポート、こどもへの声かけ	1		
マンション内の活動、住民との外出	1		
ラジオ体操	1		
両隣のお宅への電話での声かけ	1		
地域との関わりがないという回答の、地域との関わりが無い理由	30	こどもが成長すると関わる必要がなくなる	7
		時間がない	5
		高齢のため地域活動は難しい	4
		掲示板や回覧板がなく情報が入ってこない。地域行事もない	2
		子育てで手一杯	2
		以前転居し今の居住地には知り合いがない	1
		時間がない。地域活動の情報も伝わってこない	1
		障害のある子の面倒をみていて余裕がない	1
		退職すると関わりがなくなった	1

		地域活動の情報がないので参加する機会もない	1		
		地域交流への考え方が多様でどこまで踏み込むべきか分からない	1		
		町会費の使途が不明	1		
		勉強や仕事で手一杯	1		
		来日間もなく日本語が分からない	1		
		隣人が亡くなり付き合う人がいなくなったが今は一人が気楽	1		
<p>地域との関わりが回人どんかっかれば関るといいた内容</p> <p>※関わるるな可能な性を含む</p>	23	機会と時間が合えば	3		
		知人から誘われれば	3		
		子育てが一段落したら	2		
		孫が生まれたら	2		
		こどもが参加しやすいイベントなら	1		
		こどもにメリットがあるなら	1		
		(誰かから)誘われれば	1		
		自分ができることがあり、時間が合えば	1		
		自分の住んでいる近所に知り合いはいらない。他の地域の活動であれば参加したいと思う	1		
		集合住宅内での機会なら	1		
		情報収集できる方法があれば	1		
		職場の勧めと休暇等の支援、趣味関係からのつながり、短い拘束時間で単発等、活動しやすい内容があれば	1		
		退職して時間ができれば	1		
		地域と関わる必要性を感じたら	1		
		知人から誘われれば。自分ができることがあれば	1		
		得することがあれば。得することがなければ地域福祉活動はやらないと思う	1		
		日々の時間には余裕があるため、もし必要とされれば自分にできることをしたいと思うが、普通に生活をしている限りでは自分が必要とされる場面に出会うことがない	1		
		戸建からマンションへ変わることで住民の顔が見えなくなった	2		
		<p>地域に関わる実感</p>	16	IT世代とは人情の感覚もコミュニケーション手段も違う	1
				協調性の無い人が増え貧富の差が歴然となり余裕が無い	1
近所付き合いが希薄化	1				
高齢化で自治会活動をできる人がいなくなってきている	1				
高齢者はAI化について行けていない	1				
個々の生活が違いすぎて、みんなで同じ地域福祉活動をするのは無理がある	1				
こども会参加世帯が減り育児の中で世帯が孤立しやすい	1				
こどもの減少	1				
地元愛がなく、長く付き合う気持ちがないと感じる	1				

			商店の減少に伴う買い物の不便さ	1
			生活が楽になるとありがたい	1
			都営住宅で肩身が狭い。生保受給者専用住宅があると良い	1
			人付き合いのない人や、日中過ごす居場所のない高齢者が多い	1
			古くからの居住者が減り交流が減った	1
社会資源 に関する 回答	8		こどもの遊び場が少ない・環境が整っていない	3
			病児保育が使いづらく預け先がない	2
			エレベータの無い団地があり高齢者が外出できない	1
			駐輪場が屋外ばかりで大変	1
			家賃の安い家がない	1
地域との関わり はあるが、関 わりが限定的 な関わり の種別	8		輪番制の町会・自治会役員担當時のみ	3
			清掃活動程度	2
			居住時期が同じ昔馴染みの人のみ	1
			隣近所と挨拶程度はするが、他の住民とは交流がない	1
			隣人と話す程度	1
地域との関わり はないが、そ れで良いと回 答した人の理 由	8		友人との付き合いで十分	2
			近所付き合いに煩わしさを感じる	1
			子育てで手一杯。ママとの付き合いぐらいでちょうど良い	1
			仕事の関係者との付き合いで十分	1
			友達がいれば地域との関わりは無くても良い	1
			マンション近隣住民とは挨拶はするが、それで事足りている	1
			めんどくさい。居住地域に知り合いはいらない	1
人手不足 に関する 回答	5		自治会役員のなり手がいない	2
			次世代の育成・継承が課題	1
			自治会未加入の賃貸居住者が増え当番がすぐに回ってくる	1
			役員の高齢化で動ける人がいない	1
落胆や失 望が感 じられる 回答	5		具合が悪くないのに清掃活動に参加しない人がいる	1
			集合住宅で隣の夫婦が認知症になり、泥棒と騒がれたことがある。管理人に相談しても話を聞くことしかしてくれない	1
			消防団の活動も、いつも決まった人が参加する	1
			相談機関は現実には困らないと対応してくれない。以前どこかにもしもの時のことを相談した時、「入院が決まった時等、具体的に困ってから来て下さい」と言われてしまった	1
			役員の時に単身者や車いすの方等が集まれる場所があると良いと提案したが、協力者が得られず実現しなかった	1

ごみ問題の悩み	4	資源ごみの持ち去り	2
		カラス・不法投棄	1
		不法投棄	1
今の社協への激励・期待	3	頑張っている。応援している	1
		社協の活動に期待。できることは協力する	1
		社協の催しや企画は素晴らしい。何か思いついたら提案したい	1
ボランティア活動に関する回答	3	相談先が分からない	1
		年齢や体力を思うと興味はあるが参加できない	1
		身近な人が高齢で独り暮らしをしているので気にしてあげたい	1
交流のなさに関する回答	2	外国人との交流がない	1
		新旧入居者の交流がない	1
建て替えるに伴う転居のマイナス面	2	引っ越しが必要だが、高齢者だけでは転居できない	1
		以前あったコミュニティが転居でなくなりつながりが断絶	1
地域との関わりの中での難しさ	2	地域交流への考え方が多様でどこまで踏み込むべきか分からない	2
ニーズ	2	支援の必要な人の状況把握・多機関連携	1
		釣り堀	1
家族との関わり	1	定期的な見守りの仕組みがある	1
活動継続が難しい	1	ふれあい・いきいきサロンを運営しているが、活動の対象とすることも減り存続が難しい。より良い PR 方法があれば広く知ってもらい参加者が増えるのではないかと思っている	1
こんなものがあつたらいいな、こうであつたらいいなという【願望】に関する回答			49
つながることが出来る場	16	つながりと情報共有(さまざまな人・組織)	3
		自分ができることで地域活動に協力する	2
		多世代交流イベント	2
		外国人とコミュニケーションできる場	1
		気軽に交流でき情報共有ができる場	1
		高齢者の憩いの場	1
		コミュニティとしての寺院の解放	1
		障害のある子の一時預け先	1
		先輩外国人との交流や、日本について知ることのできるイベント	1
		地域の祭りに参加しやすい環境	1
		定期的につながる場	1
		共働きの保護者が頼れる近隣関係	1
誰にとってもやさしく・快適に	6	駅で図書が返却可能な仕組み	1
		区内南北の交通網	1
		子育て中の方や高齢の方への声かけシ	1

		システム	
		最先端の物を取り入れみんなに住みよい街	1
		情報格差の生じない情報発信	1
		生活の中の不便さの解消	1
鳥獣被害防止対策	5	ネズミの対策	2
		鳩の対策	2
		ハクビシン、タヌキ、カラスの対策	1
福祉サービス	5	一時保育・預かり保育制度の使い勝手の向上	2
		介護を受けたいけれど実際に受けられるまでの期間、何か介助してもらえる手段を作ってほしい	1
		高齢者を大切に作る区の政策が増えてほしい	1
		障害者という枠でサービスを作るのではなく、歳をとっても安心して暮らせるみんなが使える福祉にしてほしい	1
地域福祉活動	4	何か困ったことがあれば間に入ってくれる人がいると良い	2
		子育て世帯の負担軽減	1
		大変とは思いますが、民生委員さんに働きかけてほしいこともある	1
ボランティア	3	50～60代の人々の参加が増えてほしいが、ボランティア＝無償との意識が浸透しており、交通費を負担してもらった時になぜお金を取るのかと言われた。これではボランティアが広がりづらいのではないかな	1
		地域に多い独居高齢者のために買い物をサポートする人が増えてほしい	1
		土日や放課後に子どもを預かってくれるボランティアが増えてほしい	1
社会資源	2	公園の除草をもう少しこまめにしてほしい	1
		見守り等区で利用できる支援を分かりやすく、利用時の手続きも面倒のないものにしてほしい	1
コロナ禍後のつながりの再生	1	お互い様の精神で気軽に集うところから、コロナ禍で希薄になった住民同士のつながりが徐々に戻れば良い	1
障害者雇用	1	障害者が働くことに対する区の制度の充実	1
マンションやアパートでの自主活動	1	課題の発見と解決に向けた取り組みとして、定期的に当番制で地域を巡回できると良い	1
地域との関わり方	1	人が集まりボスができると人付き合いが億劫になる。気の合う人たちだけで支え合っていきたい	1
中高年向け問い合わせ機関	1	スマホやパソコンの使い方で分からないことをアナログで問い合わせできる機関	1

	都営住宅	1	高齢者の費用免除	1
	ニース	1	知り合いが今より多くなると良い	1
	防災の課題	1	行政は防災に対しては積極的に強気な姿勢で対応してほしい	1
<b>【不安・懸念】に関する回答</b>				<b>19</b>
	自身の将来	6	子育てに苦勞している若い世代が気になる	1
			ずっとここで暮らし続けたいが忘れっぽくなってきた	1
			退職後や要介護となった場合の生活	1
			何をするにもお金が必要で困る	1
			認知症の家族のケア	1
			要介護や独居となった場合の孤立	1
	何かできることはないか	3	買物が大変そうな高齢女性がいる。何か支援を利用できないのか	1
			家族と別居している一人暮らしの認知症の方のケア	1
			こどもの泣き声が激しく長時間聞こえてくる家庭へのアプローチ	1
	仕事	3	働く場所が無い	3
	安全安心	4	犯人逮捕で早く安心したい	1
			老朽化	1
一人暮らしで地震が怖い。見守りがあれば安心するかもしれない			1	
防犯対策が心配			1	
子育て世代	2	子育てに苦勞している若い世代が気になる	1	
		保育園の質が悪い	1	
建て替えに伴う転居	1	転居しなければならないことの将来が不安	1	
<b>行政・社協が【変革】すべきことに関する内容</b>				<b>15</b>
	周知方法（社協）	8	行政との違い・役割の明確化と広報	6
			地域福祉活動計画の存在を知らない	1
			社協というものは分からない。全戸配布といっても社協だよりも見た記憶がない。若い世代に届く広報が必要	1
	周知方法（江東区）	5	既存の社会資源の効果的なPR	3
			既存サービスに関する高齢者に届く広報	1
			効果的な公的機関所在地の周知	1
	ファミリー・サポート事業	1	事前登録・面談が必要と分かった時点で登録がわずらわしく問合せもしなかった。ファミリー・サポートの簡易版みたいな制度があれば良い	1
	ふれあいサービス事業	1	人がいないのか利用につながらないことがある。介護保険では家族が同居していて使えないが、ふれあいサービスからは介護保険優先と言われ、使い方のもどかしさがある	1
<b>【改善】すべきことに関する内容</b>				<b>9</b>
	周知方法	5	効果的な地域活動情報の周知	5
	誰にとって	3	小さい子を抱えて登るのは大変。住吉駅	1

もやさしく・快適に		の AI 出口にエレベータを設置希望	
		トイレがない公園へのトイレの設置	1
		都営住宅は高齢者ばかりなので、母子家庭等、都営住宅を必要としているいろいろな世代の人を入れると良い	1
より良い待遇	1	福祉の第一線でサービスをする人たちの給料が少なすぎる。手厚くすることで福祉を向上させ、職員が手が回らないという状況をなくすべき	1
<b>【教育・啓発】に関する内容</b>			<b>7</b>
地域福祉	4	地域福祉活動の理解	4
喫煙ルール	1	路上喫煙の禁止	1
交通マナー	1	自転車のスピード	1
モラル向上	1	公園の美化	1

■ひろば参加者実施ヒアリング：計 185 意見 / 71 人

【現状】に関する回答		116	
地域との関わりが読まれた、の関わり	39	町会・自治会活動	19
		ボランティア活動	11
		利用施設の行事への参加、挨拶	2
		近隣住民との挨拶、おすそ分け	1
		近隣住民との交流、助け合い	1
		近隣の高齢者のみ世帯への声かけ	1
		子育て広場の開催	1
		清掃活動	1
		花を通じた住民との会話、定期的な外出	1
		ボランティア活動、町会・自治会活動	1
		地域との関わりが読まれた、の関わり	25
地域活動の情報が無いので参加する機会も無い	2		
価値観の違う人との関わりがストレスになる	1		
身体の不自由さ	1		
近所付き合いが苦手	1		
健常者に対するコンプレックスもあり人付き合いが苦手(精神障害者福祉施設利用者)	1		
交流がない	1		
高齢のため地域活動は難しい	1		
こどもが成長すると関わる必要がなくなる	1		
誘いもない中自発的に声をかけようとは思わない	1		
仕事で手いっぱい	1		
仕事と子育てで手一杯	1		
仕事は他地区で友人もおらず情報もないため	1		
自分に合った場所が無い	1		
自分のプライバシーを守りたい	1		
生活リズムの中に地域活動がない	1		
負担が大変そう	1		
隣人が亡くなり付き合いの人がいなくなった。人前は苦手	1		
高齢のため地域活動は難しい。時間も無い	1		
人付き合いが面倒	1		
地域との関わりが読まれた、の関わり	20	知人から誘われれば	3
		機会と時間が合えば	2
		誘われて、機会と時間が合えば	2
		自分ができることがあれば	2
		家族から誘われれば	1
		興味がある分野の活動であれば	1
		誘われれば	1
		自分ができることがあり、機会があれば	1
		自分ができることがあり、知人と一緒なら	1

内容 ※関わる よくなる かもしれ かといな いとい可 能性を含 む		情報収集できる方法があれば	1
		知人から誘われれば。情報収集できる方法があれば	1
		必要性を感じれば	1
		年配の方から「若い人だからこれやって」と言われることが多く少し負担に感じることがある。丸投げではなく、一緒にしたいという気持ちがあると手伝いたいと思う	1
		理解者がそばにいるなら	1
		知人と一緒なら	1
地域との 関わりや 居住地を 実感する	14	日頃からのつながりの重要性	2
		近隣の高齢者の方に話し相手がないよう	1
		公園が狭い	1
		戸建からマンションへ変わることで住民の顔が見えなくなった	1
		事故が多い	1
		次世代の育成・継承が課題	1
		住民同士の関係は強制されても長続きはしない	1
		ルール違反が改善しない	1
		アート、音楽系の活動ができる場所が少ない	1
		短期入所や移動支援の担い手不足	1
		資金面・人材面から地域活動が困難と感じる	1
		地域福祉活動に参加するにはゆとりが必要	1
		道が細い	1
地域との 関わりが 中での難 しさ	6	プライバシーの保護と地域福祉活動との壁	2
		外国人とのコミュニケーションが難しい	1
		なかなか顔の見える関係になれない	1
		怒鳴る人がいる	1
		暴言を吐く人がいる	1
地域福祉 活動に対 する意欲	4	マンション内の高齢者の見守り活動の推進	3
		自分ができるとして地域活動に協力する	1
集合住宅 居住者の 合意形成 の難しさ	4	自治会活動の話し合いがまとまらない	2
		マンション内で高齢者と顔を合わせる機会がない	1
		大規模修繕の話し合いがまとまらない	1
ニーズ	2	支援の必要な人の状況把握・多機関連携	1
		効果的な事業周知・広報活動の支援	1
地域との 関わりが ないがそ れで良い と回答し た人の理 由	1	おすそわけ程度のやり取りはあるが、地域福祉活動と聞いても即浮かばない。定年まで働いて今更何かの縛りや時間のとられることをしたくない	1



			ベテランの年配ボランティアの方から一方的にお叱りを頂いたことがあります活動に不安を覚えた。今後の地域福祉のためには、若い世代との協働が必須であるという意識、危機感の上で計画、活動していった方が良い	1
			外国人が多く住むようになり社会環境もかなり変わって来た。将来にわたってこの地域がどうなるのか、どう変わっていくか、ビジョンを聞きたい	1
福祉サービス	2		介護認定の有無でおむつにかかる費用に差があると聞いたが、介護認定を受けていない場合でも高齢者にはもう少し便宜を図れないものか	1
			低所得世帯の子ども達が習いごとに行けるよう、区から補助金、助成金があれば、私も教室をしているので教えてあげたい	1
ボランティア	4		体力的に仕事を減らし、ボランティア活動に参加したい。社協のボランティア講座も受けている	1
			一人暮らしの高齢者や子育て中で孤立しがちな方でも、何か得意なことで助け合う等、一方的にお世話するのではなく、尊厳を大切にしながら良い関係が築けると良い	1
			地域にスーパーがなく買い物が不便。障害を持っている方や高齢者の方向けに、訪問して注文をサポートしてくれると助かるのかもしれない	1
			自治会では実施しているが、高齢者のみの世帯の重たいごみを持っていく活動が他のところでもあったと良い	1
NPOとの協働・連携	1		行政と連携・協働しながら地域福祉活動に取り組むよう求められても、自分達の団体をなんとか維持することに必死の状態では応えようがない!協働というならば、行政としての事業の位置づけが欲しい	1
<b>行政・社協が【変革】すべきことに関する内容</b>				<b>12</b>
地域福祉活動の把握・協働	5		資金面・ハード面・ソフト面の支援	2
			若い世代が行動を起こそうと思うのはほとんどが土日だが、行政機関の多くは休みのため、連携・協議したくてもできない。役所の方ももっと現場に足を運び、その地域、場所で異なる課題を目で見て、声を聴いて欲しい	1
			所属の強制が無く出入り自由で、風通しが良く同調圧力も無いサラリとした活動が理想的。江東区には、社協にたらい回しをせず、社協の個別支援と両輪で支援を拡充してもらいたい	1
			取り組みや実情が分かるよう、区長に見守り活動を観に来てもらえると良い	1
周知方法	3		既存の社会資源の効果的なPR	2
			既存の社会資源の効果的なPR・教育機関との連携	1

	防災	2	地域内で介護を受けている方のこと、災害時の避難に関する本人の意向とその救護方法について、区がその程度把握しているのか明確にしておいて欲しい	1
			江東5区は海面より低い地域：マイナス地域（ゼロメートル地域）が広がっており、30年70%首都直下地震・台風の大型化浸水等の際には食生活が機能しなくなる。支援の仕組みを早急に確立すべき	1
	地域との関わり	1	住民の人々のつながりや、地域サークルが継続的に活発に活動できるよう、区や社協は中間支援組織として活動の支援を積極化することが必要	1
	つながりと情報共有	1	以前公園の不審者について通報したが、その後警察から連絡がなく、連携や情報共有のあり方に疑問を感じる。警察からの不審者メール連絡では、発生場所やその後の状況、結果が分かるようにして欲しい	1
<b>【改善】すべきことに関する内容</b>				<b>8</b>
	周知方法	5	効果的な地域活動情報の周知	5
	誰にとってもやさしく	3	車いすの通りにくさの解消、公衆トイレの増設	2
			駅のエスカレータ設置	1
<b>【不安・懸念】に関する回答</b>				<b>3</b>
	自身の将来	2	働く場所が無い。収入が欲しい	1
			死後、遺品をどう処分するのか分からない	1
	何かできることはなにか	1	さみしそう・疲れていそうな人へのアプローチ	1
<b>【教育・啓発】に関する内容</b>				<b>2</b>
	交流	2	こどもが幼い頃道端等で年配女性に一方的にお叱りを受け、残念ながら同性として壁を感じざるを得ない。理解、協力が深まるような世代間の交流、意識改革が必要	1
			行政や地域団体の支援を受けながら、それぞれの地域で若い世代が地域活動に参加する場をつくっていく必要がある	1

■団体ヒアリング：計 156 意見／35 団体  
 (社会福祉法人：17、NPO：12、株式会社 5、公益財団法人：1)

【現状】に関する回答		91	
地域福祉活動を進めるにあたってのニーズに関する回答	43	つながりと情報共有	7
		自施設に合うボランティア	5
		きめ細やかな支援	3
		効果的な事業周知・広報活動の支援	3
		利用しやすい公共施設・交流の場	3
		行政・社協・多機関の連携・協働	3
		資金面・ハード面の支援	2
		自分に合う情報の見つけやすさ	2
		自分に合う場・話を聞いてくれる場	2
		利用しやすい送迎サービス	2
		外国籍の利用者とのコミュニケーション支援	1
		活動場所	1
		区民・団体間の思いの共有	1
		区内在住の外国人にとって通院は分からないことばかり。医療通訳、病院への付き添いのニーズがある	1
		こどもたちが社会的な体験が利用できる場所が少ない。気軽に地域の歴史について知ったり、触れることができる場所があると良い	1
		ごみ屋敷の片付け支援	1
		精神障害者の住居選びの選択肢。精神障害者の賃貸契約率は低く、区内での住居探しが非常に困難	1
		人材紹介・交流・学び等ソフト面の支援	1
		増加するセルフレジに知的障害のある利用者が戸惑っている。誰にでも分かるユニバーサルデザインの街づくりをして欲しい	1
		地域との連携に関する支援	1
出前防災セミナー	1		
活動の継続・経営が難しい	13	次世代の育成・継承が課題	3
		運営施設内で他者へ迷惑をかけないように利用してほしいと案内することや、意見の異なる利用者間の調整に労力や予算を割くことが悩ましい	2
		資金面・人材面の困難	1
		保育園乱立の弊害	1
		求人に応募がない	1
		固定開催の弊害	1
		参加者の固定化	1
		地域住民に存在が知られていない	1
		事業所に通うこどもたちの送迎の回数を制限しており、通いたくても通えないこどもがいる。移動支援もみんなが使うとなると難しい	1
		地域貢献活動を行う場合、職員ボランティア活動と位置付けて良いのか、残業扱いとすべきなのか、その線引きが難しい	1

地域との関係に関する回答	7	コロナの影響により関係が希薄化している	2
		自己中心的な人が多い	1
		居住形態が違う住民同士の交流がない	1
		友達がない、相談先や居場所がない、という子育て世帯が多く、若年の一人親も増加しており、子育てが孤立化している	1
		施設から出てしまう音に対して近隣住民からクレームが入ることがある	1
		臨海部は地域との関わりを望まない若い世代が多いよう。近隣住民が交流できる場所も少なく、暮らしている人の顔が見えず、人間関係ができる以前の状態であり、街・地域がないように感じる	1
今後の方向性・関心に関する回答	7	いろいろな領域の分野の方と一緒に課題に取り組んでいく	1
		障害を持つ方が親と離れても地元で生活できるよう、区内に入所施設を増やしたい	1
		地域に開かれた存在になる	1
		地域に開き障害者への理解を促進する	1
		行政が対応出来る内容からは手を引き、行政が出来ないこと・地域のニーズに応じて積極的に対応している。これからも行政と地域の架橋的な役割を担っていく	1
		街で困っていきそうな方を見かけても、なかなか「声かけ・サポート」することが難しいという方が多いため、楽しみながら多様性にふれ、自ら行動するきっかけとなることを目指す事業を行っている	1
地域の団体・企業の活動と、それらに対する地域・行政の声、期待する役割等をすり合わせるため密に連携する機会を増やしていきたい	1		
防災上の課題に関する回答	6	地域との合同防災訓練ができていない	3
		地域との協力体制が整っていない	2
		発災時の職員体制が見えない不安	1
社会資源に関する回答	4	精神障害者の居住・宿泊施設が少ない	1
		成人した知的障害者が利用できる施設・居場所がない	1
		誰もが気軽に集える地域の拠点がない	1
		ボール遊びができる公園が少ない	1
地域とのかみ合わせの取組に関する回答	4	町会・自治会からは入園式に出席頂いたり、雑巾等の寄贈があったりする。近隣のマンションとは、高所避難所になっているため、年一回避難訓練を実施している	1
		つながってきたから地域を頼ることができる	1
		つながろうと努め頼ることができるようになろうとしている	1
		利用者が行うさまざまな活動は、地域の方と触れ合えることを中心に取り組んでいる(精神障害者支援団体)	1
地域との	4	事業以外に目を向けられていない	2

関わりが読まれない 取り返しの取れない理由 無関係な理由 活動参加者に関する回答		地域住民に存在が知られていない	1
		地域との接点の持ち方が分からない	1
	2	ボランティアは難しいのではと警戒せず、気軽に継続参加してもらえれば、もっと地域を巻き込んでみんなでつながれると思う プログラムの参加者には手伝う側にも回ってほしいが、そこまではつながっていない	1
専門職・行政との関わりが少なすぎる	1	コロナ禍で孤立が深まったと感じる一方、地域の専門職との関わりが少なく、行政には行きたくないという人が多い	1
こんなものがあつたらいいな、こうであつたらいいなという【願望】に関する回			26
つながることのできる場	15	つながりと情報共有	8
		企業が協働できることを見つける場（こらぼらの有効活用）	1
		多世代交流イベント	1
		地域活動団体が使える公営施設	1
		地域に暮らす障害当事者の理解	1
		地域の中で横のつながりができ、挨拶やバス停や信号での見守りが行われたり、保育園や小学校が地域交流の場になると良い	1
		福祉事業所の BCP 対策の相談受付・協議	1
		若い世代から話を聴く場	1
福祉全般	4	地域包括支援センターでの対応にも限界があるため、地域の協力員に案件のふるい分けを行ってもらい、相談のレベルによっていくつかの機関で棲み分けができると良い	1
		直接の交流がなく Zoom 等を用いた関わり等でも、地域での役割が持てると良い	1
		社協には地域福祉に対する意識の違いを見据えて動いてほしい	1
		地域全体がもっと「ゆったり」として欲しい	1
福祉事業との連携	4	効果的な事業周知・広報活動の支援	2
		商業施設等と連携して清掃活動等の社会貢献活動を実施することで、より多くの方を巻き込み、社会との良い関係を作るきっかけとなると思う	1
		資金面・ハード面・ソフト面の支援	1
事業	2	協働事業提案制度の複数年度化	1
		地域との協働	1

	ボランティア	1	ボランティアのあり方について区・社協の見解をまとめ、それをもとに民間活動団体との協働のあるべき姿を示してほしい	1
【教育・啓発】に関する内容				19
	外国人	7	外国人に日本を好きになってもらい、日本に納税してもらえよう、日本人は自国の現状を理解した上で外国人の能力を多方面で活用させてもらえるようにしていくべき	1
			江東区に多いアジア圏の外国人はほとんど英語は通じない。「外国人だ」という感覚、意思疎通の苦手意識を持たないようにしていこうと伝えたい	1
			区内在住の外国人には病院への付き添いのニーズがある一方、病院側から通訳は歓迎されない。ニーズを理解してほしい	1
			隣近所の日本人がやさしい日本語で生活の仕方を説明してあげれば、外国人個々のコミュニティに広がる。ほとんどの問題は日本人側の心構えで解決できる	1
			日本には外国人の受け入れに関する理念が決定的に不足している。ゆくゆくは日本の財産・宝になる人達であるという考え方になっていかなければならない	1
			日本に来たばかりの外国人は生活の全ての場面で困る。病気をしても救急・消防への電話の仕方も分からない。外国人への生活ノウハウの伝達が必要	1
			日本の文化やルールを知って敢えて無視しようとする外国人はいない。外国人の出身国の文化と日本の文化の違いを知れば余計なトラブルは起きなくなる	1
福祉専門職の資質向上	3	企業や住民の方からの協力の申し出があっても、受け止めきれない現場の弱さがある	1	
		福祉側がITでの情報発信に弱いため、社会貢献したい方がいても、施設内の様子が分からない。SNSの工夫が必要	1	
		福祉関係の人は、世の中のことを知らない。遅れている	1	
地域福祉	3	日頃からのつながりの重要性(災害)	2	
		地域福祉活動の理解	1	
アルコール依存症	2	働いている方がアルコール依存症になった場合、恵まれている企業でなければクビになるだけ。当事者を支える仕組みづくりが必要	1	
		病気であることを自覚できれば治るものであること等、アルコール依存症に対する理解が進んでいない	1	
障害当事者の理解	2	発達障害・精神障害への無理解が当事者を追い詰め孤立させる。精神障害の理解が必要	2	
子育て	1	チラシで事前告知を行っているが、公園で親子のイベントを行うと近隣住民から騒音の苦情が入ることがある	1	

	交通マナー	1	道路上の自転車専用レーンに駐停車しないでほしい。拡充してほしい	1
<b>各組織・団体が【変革】すべきことに関する内容</b>				<b>15</b>
	外国人への対応	4	多言語対応	1
			年齢によらない支援	1
			やさしい日本語での対応	1
			徹底して日本語を使う環境づくり	1
江東区の体制	4	【組織の縦割り】 縦割り行政のため利用者が施策を利用しにくく、関係機関もつながりにくい	1	
		【担当者依存の仕組み】 進んでいる事業等が区役所の人事異動にともない仕切り直しとなることがあり戸惑う	1	
		【町会・自治会以外との関係構築】 行政は町会を大切にしているが、町会の世代交代が上手くいっていない。実際に近隣に住む住民の方、若い世代や新規で越してきた住民の方々との関わりも大切	1	
		【ファミリー・サポート事業】 ファミリーサポートが使いやすくなって欲しい	1	
周知方法	4	「江戸川区といえば子育て区!」のような「強み」や、多くある社会資源のPRが弱い。情報発信をもっとしていけば良い(江東区)	1	
		既存制度利用対象者への漏れのない情報発信(江東区)	1	
		行政との違い・役割の明確化と広報(社協)	1	
		行政から個人情報情報の連携が受けられない中、本当に支援が必要な人へ情報が届いているか気になっている。相談窓口までが遠いと感じている人は沢山居ると思う	1	
敷居の高さ(社協)	2	行政や社協は敷居が高いイメージで、何か企画するときにも協力相手として浮かびにくい。地域に根ざしたイベントの企画時等には一緒に参加してほしい	1	
		社協はいろいろな活動をされていると思うが、頭に浮かぶのは「外郭団体・行政の下請けじゃないの?」ということ。理解度が少なく敷居が高い。赤い羽根共同募金等お金とモノの関係でつながっているという印象。「上からの話」と捉えられないよう、当事者と目線を合わせて活動していけると良いと思う	1	
人材不足の対策	1	1	事務効率化を図るためデジタル化の推進	1
<b>【改善】すべきことに関する内容</b>				<b>5</b>
	誰にとってもやさしく	5	駅で観光客がスーツケースを持って迷う姿を見る。エレベーターの場所の表示を分かりやすくする	1
			公共施設のフリーWi-Fi整備	1
			高齢者やベビーカーを使う親子が歩きにくい場がなくなるよう、今後の開発ではあ	1

		らゆる人が歩きやすい歩道を整備すべき	
		時代と逆行しつつも、路上喫煙や吸い殻のポイ捨てを防ぐため喫煙所を設置する	1
		自動圧縮機能つきごみ箱を導入し、人の興味を最新のごみ箱に向けるとして、ポイ捨てを減らし廃棄物を資源化する意識を高める	1

## (2) ヒアリングシート

### 地域福祉活動等に関するヒアリングについて（個人）

わたしたち江東区社会福祉協議会は、江東区内の地域福祉を推進する民間団体（社会福祉法人）です。

地域福祉とは、住みよい地域の環境を住民が自ら創っていくこと、生活する上で誰かが困りごとを抱えているとき、地域に暮らすみんなで協働してその困りごとの解決に取り組むという考え方のことです。

この考え方を区内に広め、より充実させていくためには、江東区に暮らす人・江東区で働く人などが主役となって、具体的に何をしていくべきかを考え、計画を練り、その計画を実行にうつすことが必要です。

そこで、江東区民のみなさまや区内の企業・団体のみなさまなどに、計画づくりの主役として参加していただきながら、平成11年度からおよそ5年ごとに、これまで4回計画を作ってきました。この計画を「地域福祉活動計画」と呼びます。今年度は、令和6年度から向こう6年間の第5次の計画を作る準備をしています。

その準備の最初の段階として、区内在住・在勤・在学のみなさまが今感じていることや、地域福祉についての率直なご意見などをうかがいたく、このヒアリングを行うことといたしました。ぜひ趣旨をご理解いただき、ヒアリング項目へのご回答にご協力くださいますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

令和5年4月  
社会福祉法人江東区社会福祉協議会

#### 問い合わせ先

社会福祉法人江東区社会福祉協議会総務課総務担当 井上・仲本

〒135-0016 江東区東陽六丁目2番17号

江東区高齢者総合福祉センター2階

電話：03-3647-1895（平日8:30～17:15）



ホームページ



問7で「はい」と回答した方にお伺いします。

問8 あなたが現在活動している地域福祉活動等を教えてください。

問9 あなたが活動している地域福祉活動の中で、困りごとはありますか。また、その困りごとに対して、こんなものがあつたらいいなと思うことを教えてください。

問9を回答した方は問12・13にお進みください。

問7で「いいえ」と回答した方にお伺いします。

問10 地域との関わりがない、又は地域福祉活動へ参加しない理由は何ですか。

(仕事や友人との付き合いがあれば十分 など)

**問 1 1** どんなきっかけがあれば、地域と関わったり地域福祉活動へ参加しますか。

(閉じこもりがちな人が隣近所にいるとき、友人等から地域福祉活動に誘われたときなど)

**問 1 2** あなたは、身近な地域にどのような困りごとがあると感じていますか。また、その困りごとに対して、こんなものがあつたらいいなあと思うことを教えてください。

**問 1 3** 区民が主体となり、地域の様々な団体や関係機関、行政等と連携・協働しながら取り組む地域福祉活動の更なる推進に向けて、ご意見やご提案等を教えてください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

## 地域福祉活動等に関するヒアリングについて(団体)

わたしたち江東区社会福祉協議会は、江東区内の地域福祉を推進する民間団体(社会福祉法人)です。

地域福祉とは、住みよい地域の環境を住民が自ら創っていくこと、生活する上で誰かが困りごとを抱えているとき、地域に暮らすみんなで協働してその困りごとの解決に取り組むという考え方のことです。

この考え方を区内に広め、より充実させていくためには、江東区に暮らす人・江東区で働く人などが主役となって、具体的に何をしていくべきかを考え、計画を練り、その計画を実行にうつすことが必要です。

そこで、江東区民のみなさまや区内の企業・団体のみなさまなどに、計画づくりの主役として参加していただきながら、平成11年度からおよそ5年ごとに、これまで4回計画を作ってきました。この計画を「地域福祉活動計画」と呼びます。今年度は、令和6年度から向こう6年間の第5次の計画を作る準備をしています。

その準備の最初の段階として、区内在住・在勤・在学のみなさまが今感じていることや、地域福祉についての率直なご意見などをうかがいたく、このヒアリングを行うことといたしました。ぜひ趣旨をご理解いただき、ヒアリング項目へのご回答にご協力くださいますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

令和5年4月  
社会福祉法人江東区社会福祉協議会

### 問い合わせ先

社会福祉法人江東区社会福祉協議会総務課総務担当 井上・仲本  
〒135-0016 江東区東陽六丁目2番17号  
江東区高齢者総合福祉センター2階  
電話：03-3647-1895(平日8:30~17:15)



ホームページ

## 1 団体の概要について

団体・法人名			
代表者氏名		記入者氏名	
区内の活動年数	( ) 年	会員数	( ) 名
団体の紹介			

## 2 地域の福祉課題・活動について

問1 貴団体が現在活動している地域福祉活動等を教えてください。

--

問2 貴団体が活動している地域福祉活動の中で、困りごとはありますか。また、その困りごとに対して、こんなものがあつたらいいなあと思うことを教えてください。

--

**問3 貴団体は、身近な地域にどのような困りごとがあると感じていますか。また、その困りごとに対して、こんなものがあつたらいいなと思うことを教えてください。**

**問4 区民が主体となり、地域の様々な団体や関係機関、行政等と連携・協働しながら取り組む地域福祉活動の更なる推進に向けて、ご意見やご提案等を教えてください。**

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

## 2 まちづくり話し合いひろば

### (1) ワークショップ参加者のご意見

<p>城東南部 1回目</p>	<p>1グループ 地域のいいところ</p>	
<p>城東南部 1回目</p>	<p>1グループ 地域で困っていること</p>	

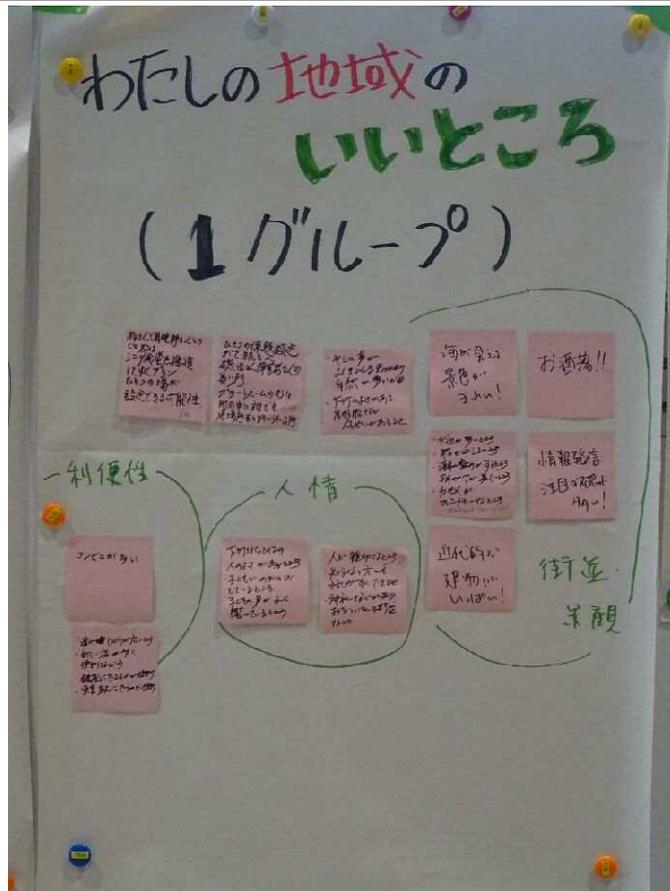






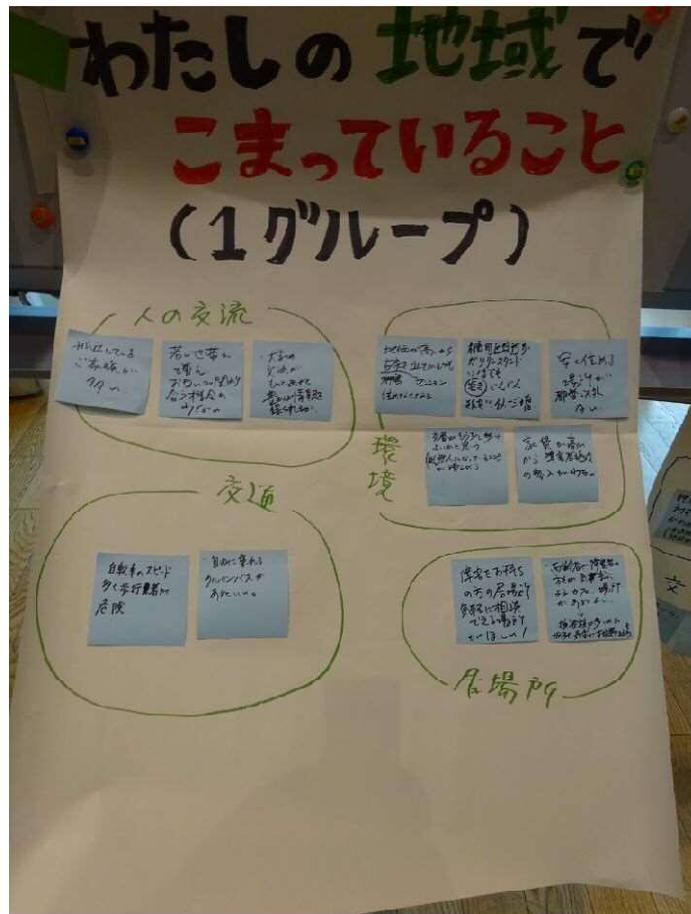
深川南部 1回目

1グループ 地域のいいところ



深川南部 1回目

1グループ 地域の困りごと



深川南部 1回目

2グループ 地域のいいところ



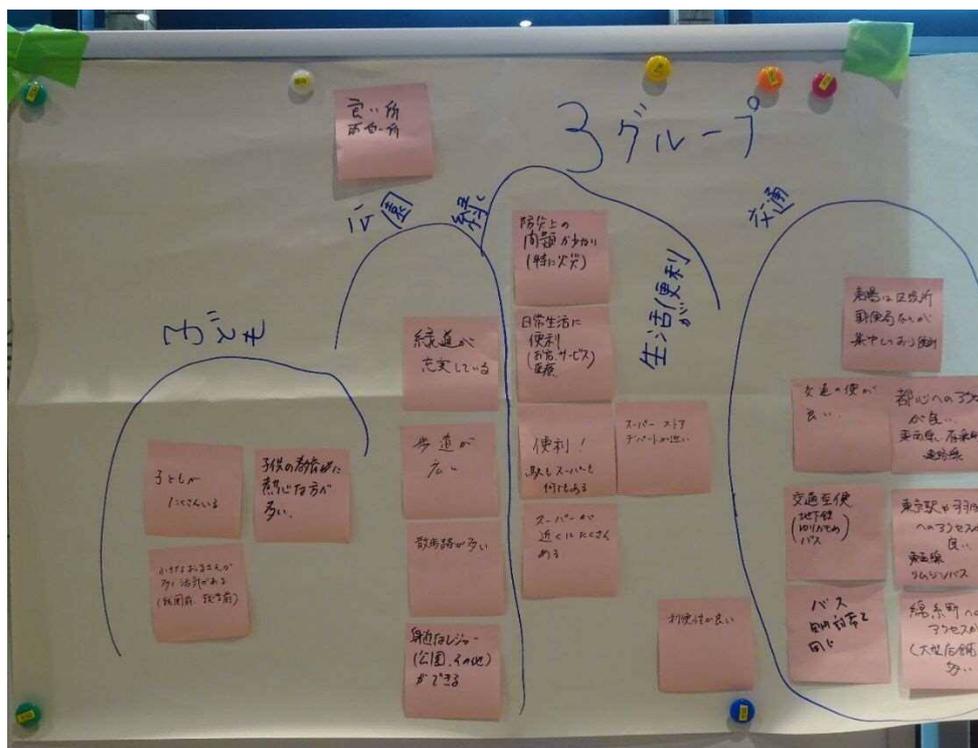
深川南部 1回目

2グループ 地域の困りごと



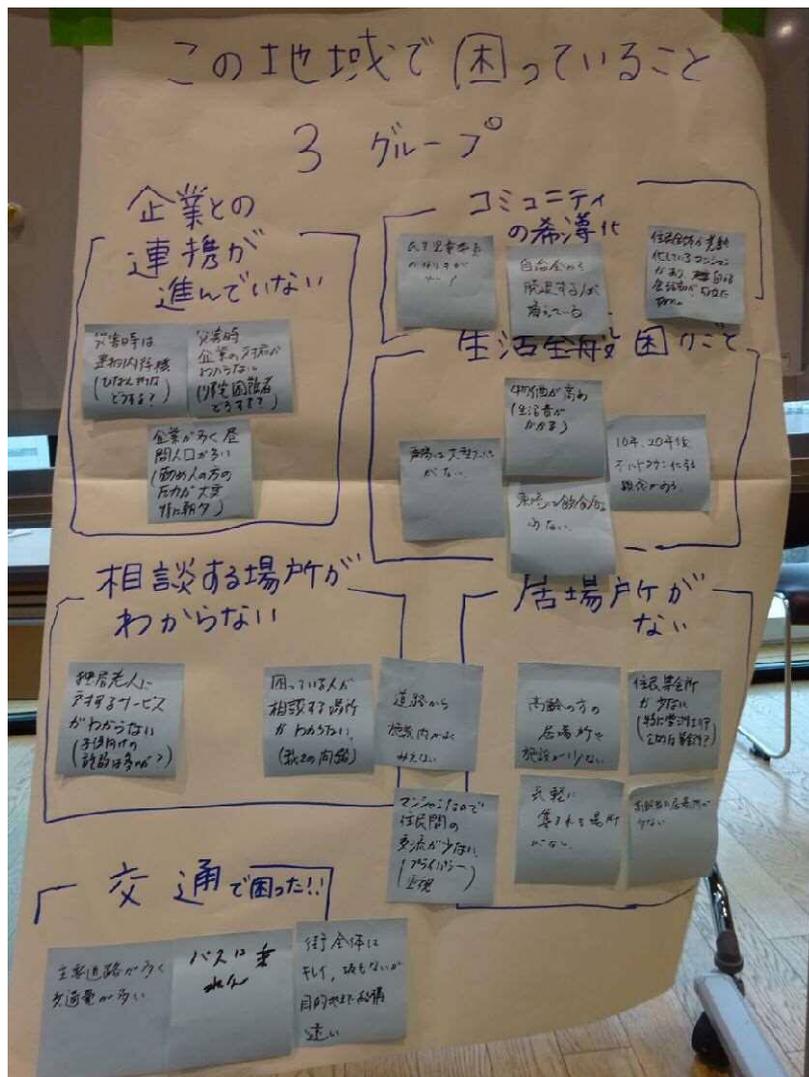
臨海部 1回目

3グループ 地域のいいところ



臨海部 1回目

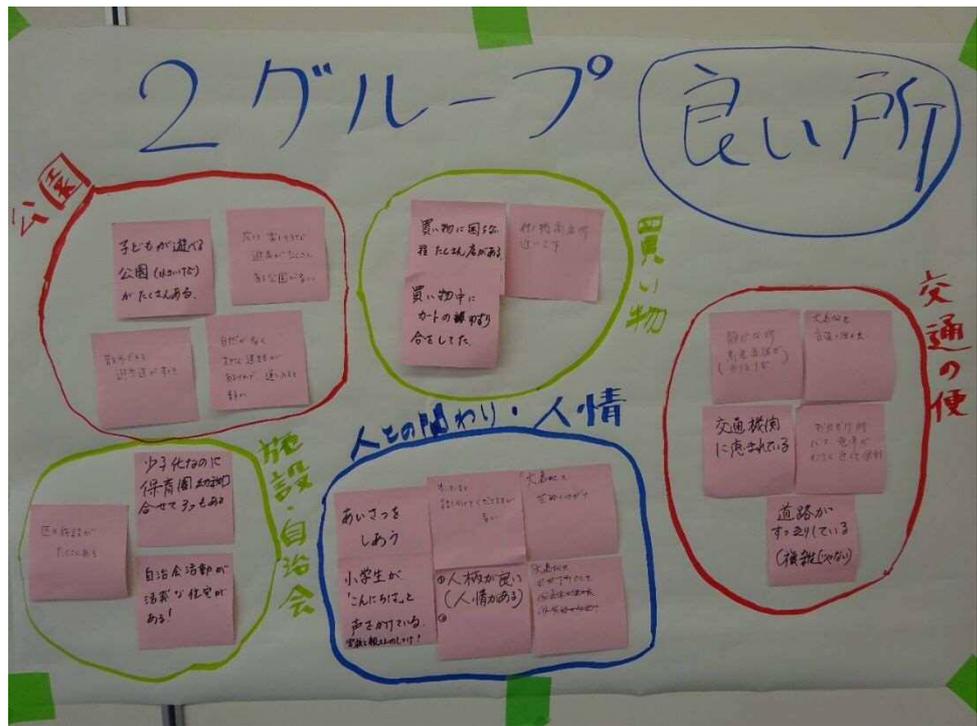
3グループ 地域の困りごと





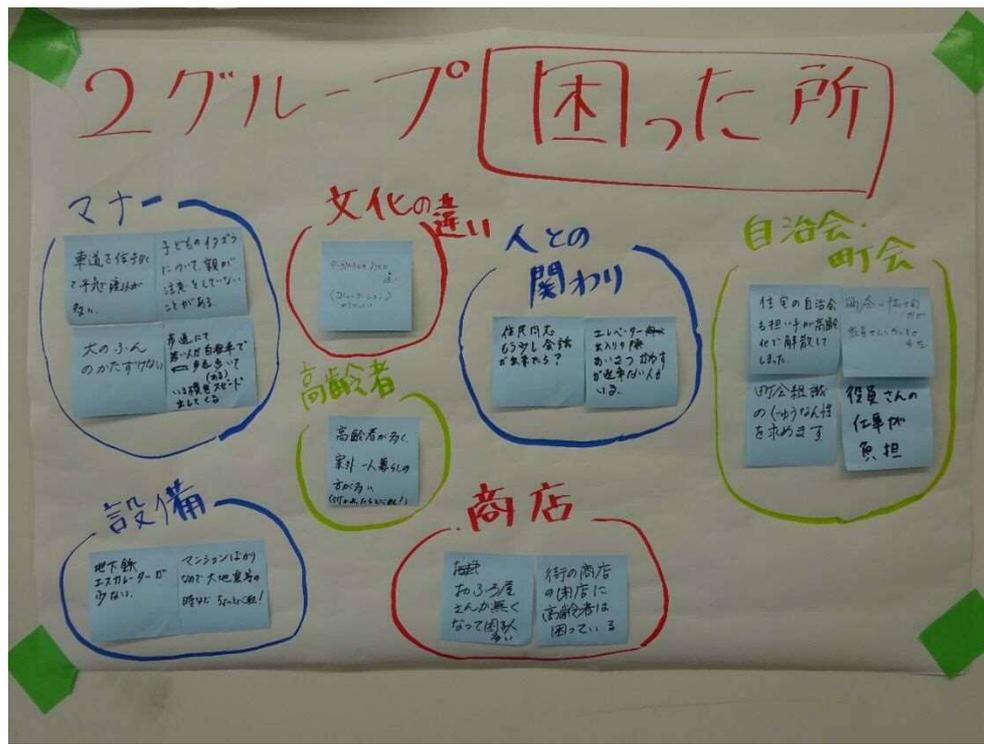
城東北部 1回目

2グループ 地域のいいところ



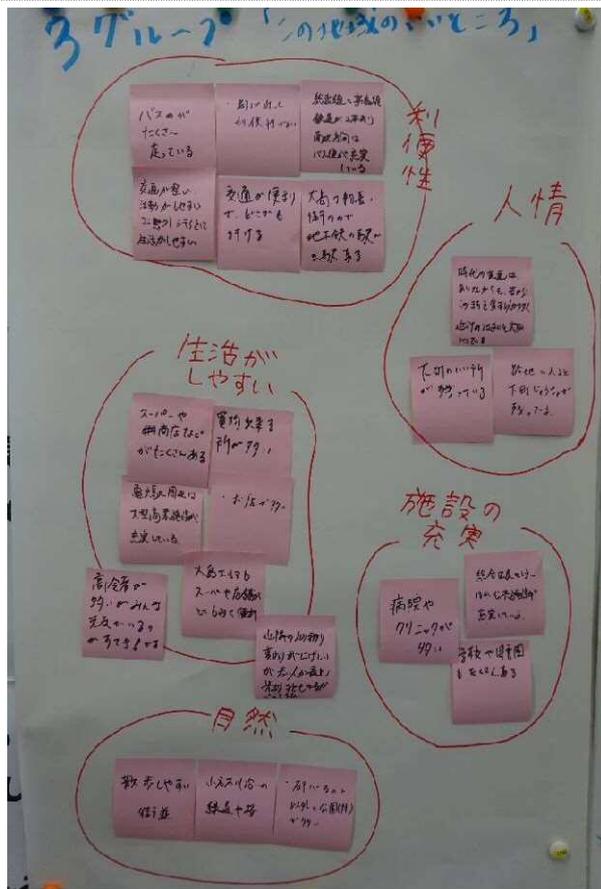
城東北部 1回目

2グループ 地域の困りごと



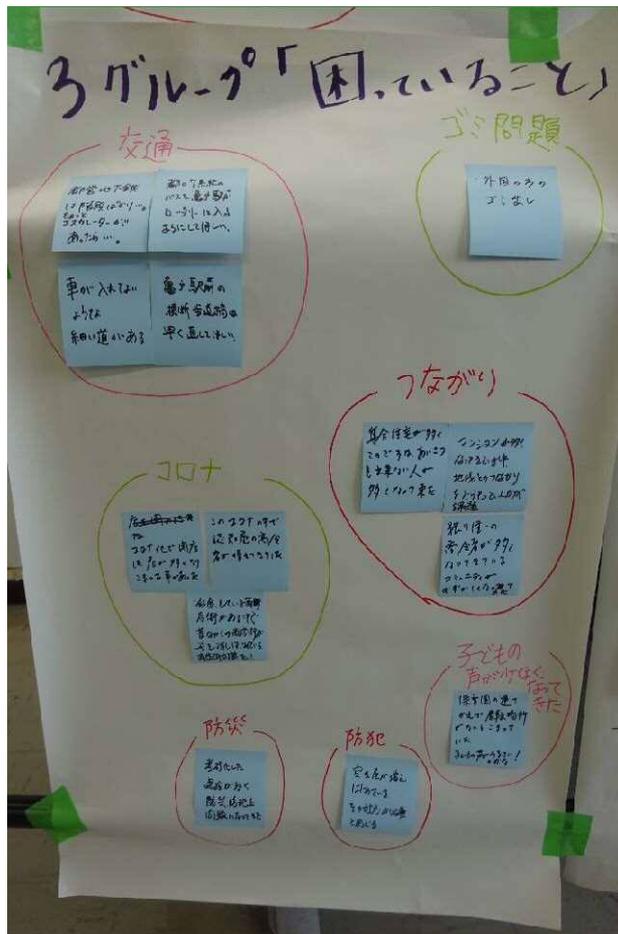
城東北部 1回目

3グループ 地域のいいところ



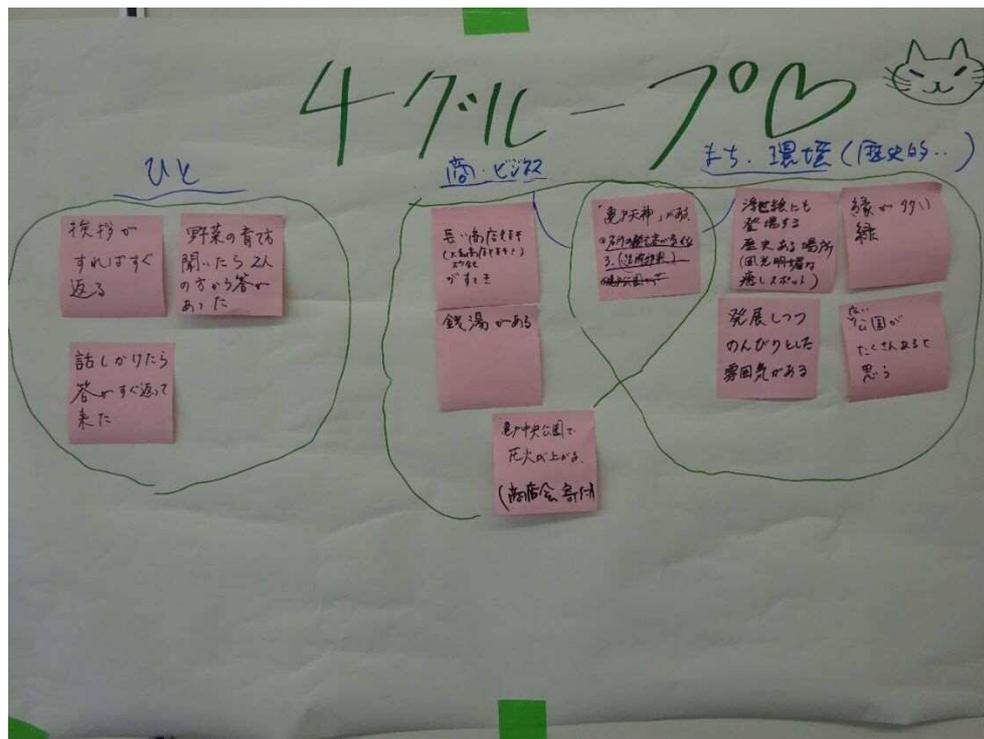
城東北部 1回目

3グループ 地域の困りごと



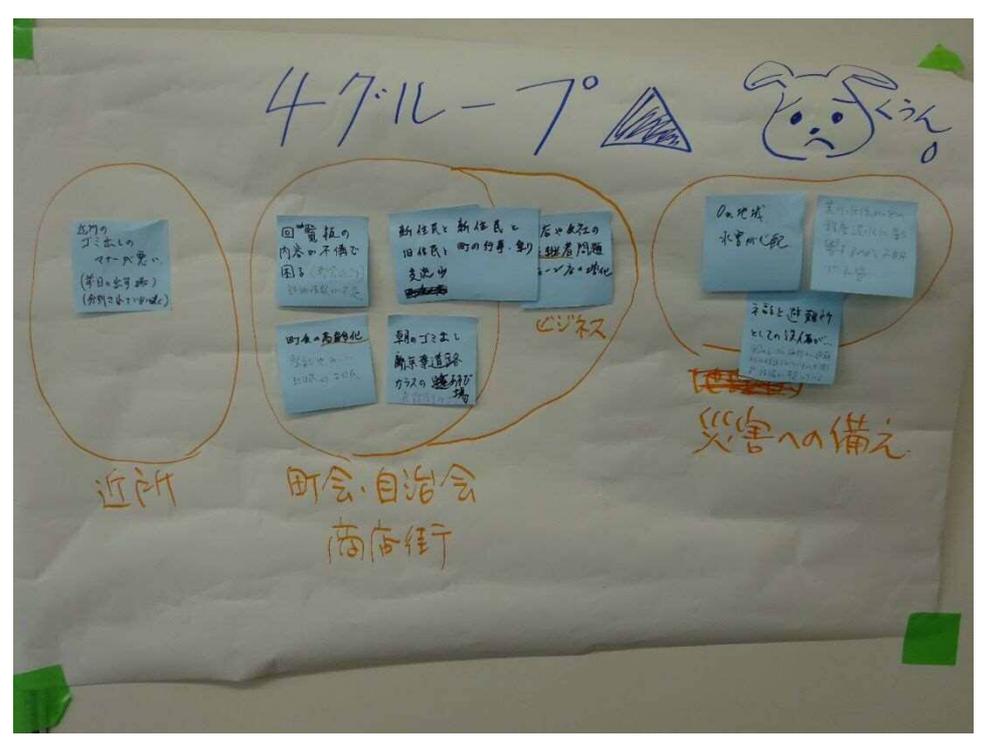
城東北部  
1回目

4グループ  
地域のいいところ



城東北部  
1回目

4グループ  
地域の困りごと







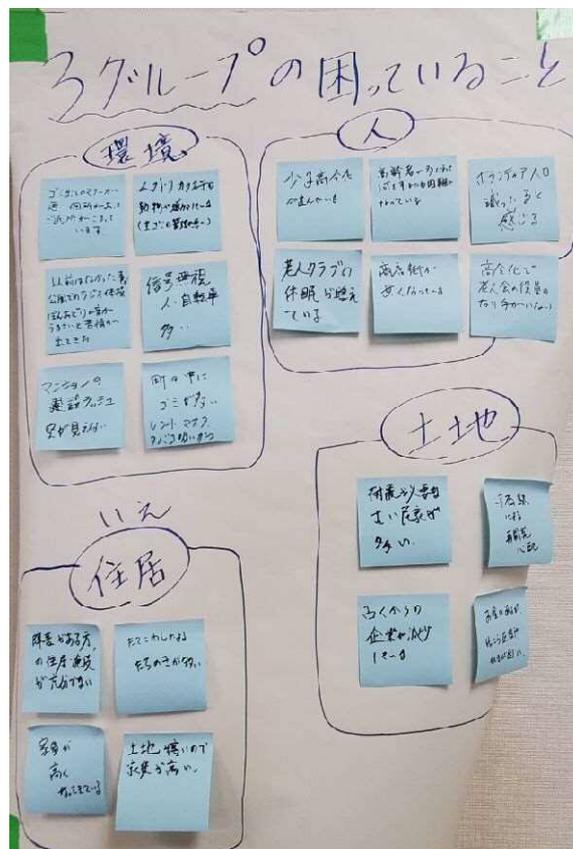
深川北部 1回目

3グループ 地域のいいところ



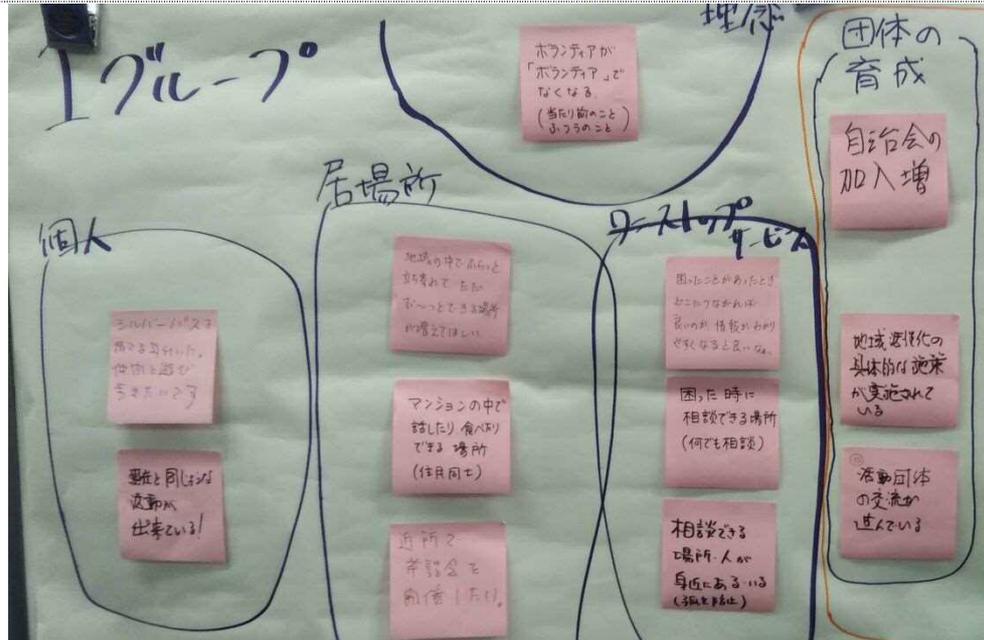
深川北部 1回目

3グループ 地域の困りごと



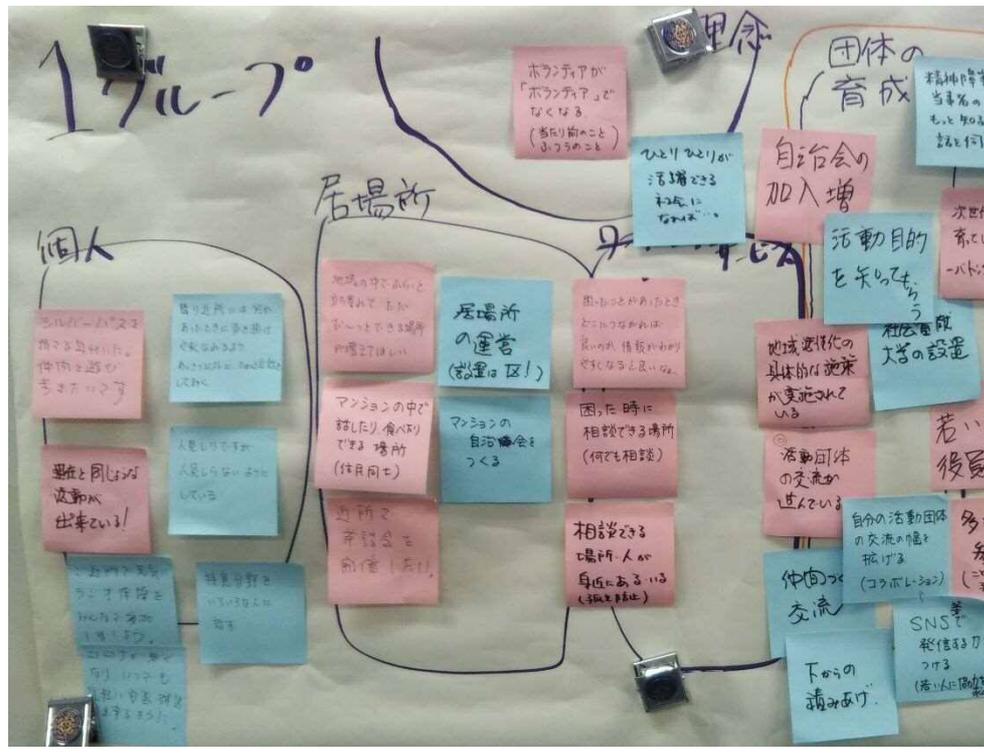
城東南部  
2回目

1グループ  
目指す地域の姿



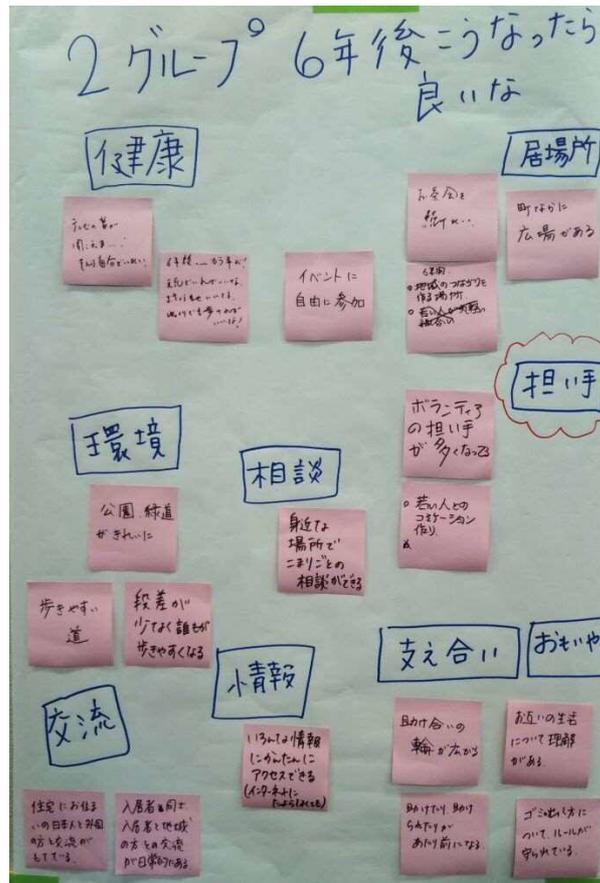
城東南部  
2回目

1グループ  
自分・地域・団体でできること



城東南部 2回目

2グループ 目指す地域の姿



城東南部 2回目

2グループ 自分・地域・団体でできること

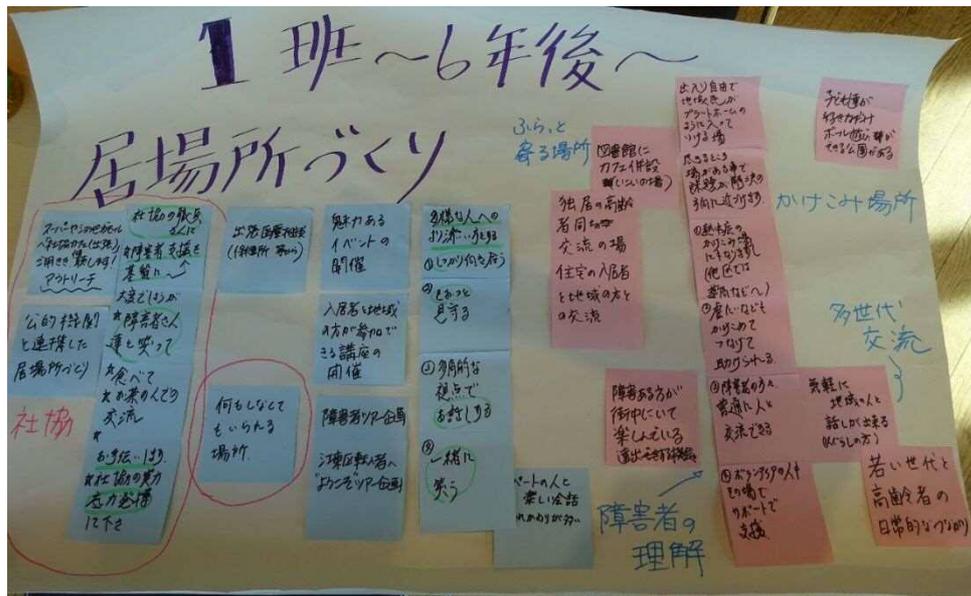






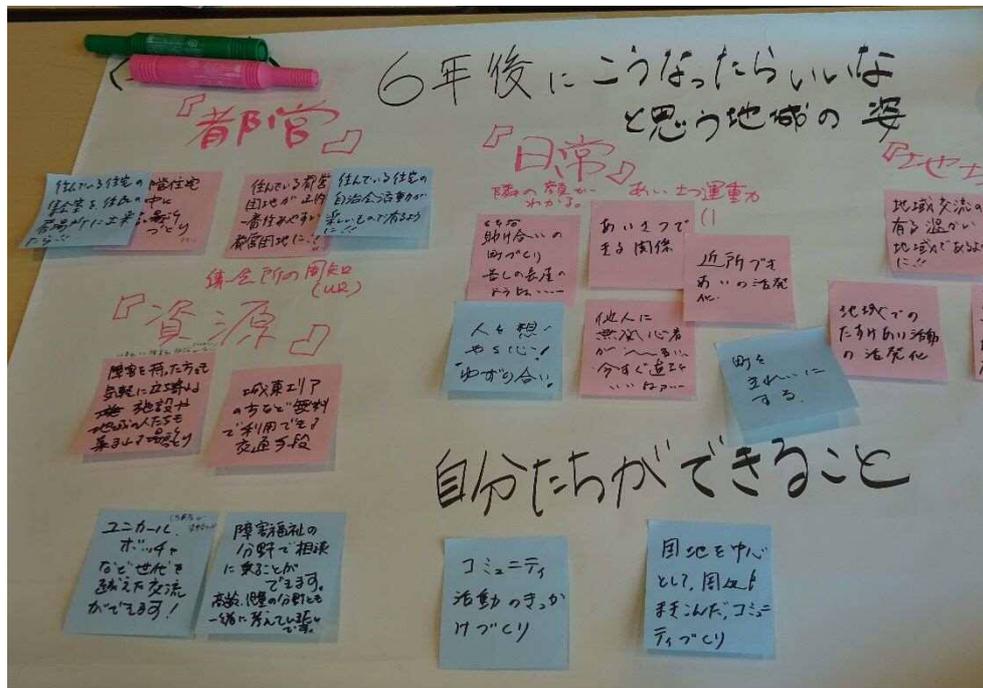
深川南部 2回目

1グループ 目指す地域の姿と自分・地域・団体でできること



深川南部 2回目

2グループ 目指す地域の姿と自分・地域・団体でできること



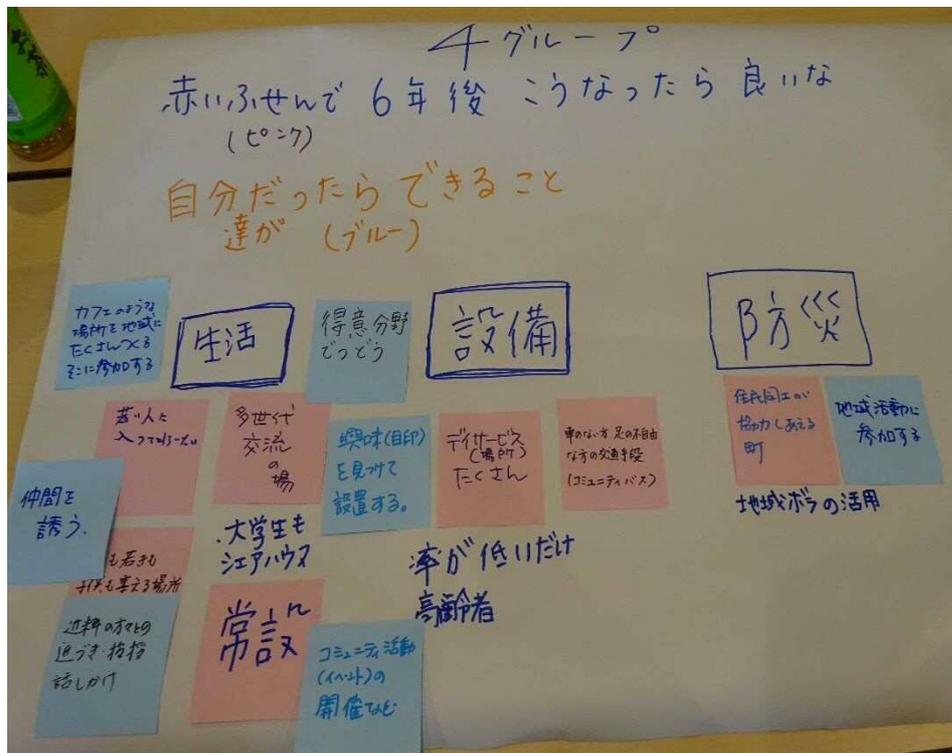
深川南部 2回目

3グループ 目指す地域の姿と自分・地域・団体でできること



臨海部 2回目

4グループ 目指す地域の姿と自分・地域・団体でできること



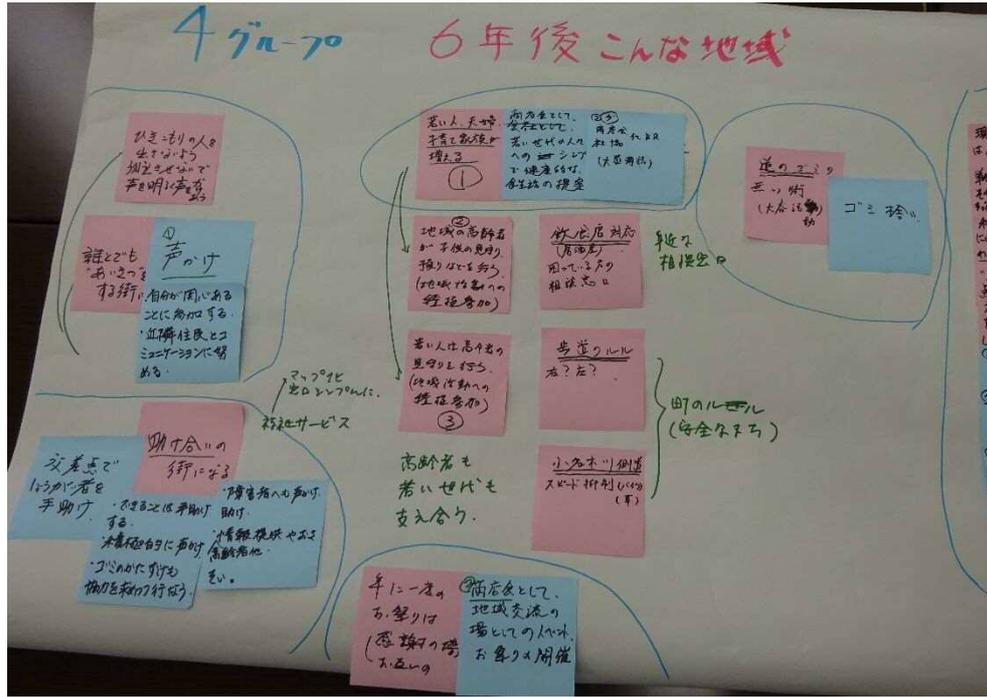




城東北部

2回目

4グループ 目指す地域の姿と自分・地域・団体でできること



深川北部

2回目

1グループ 目指す地域の姿と自分・地域・団体でできること





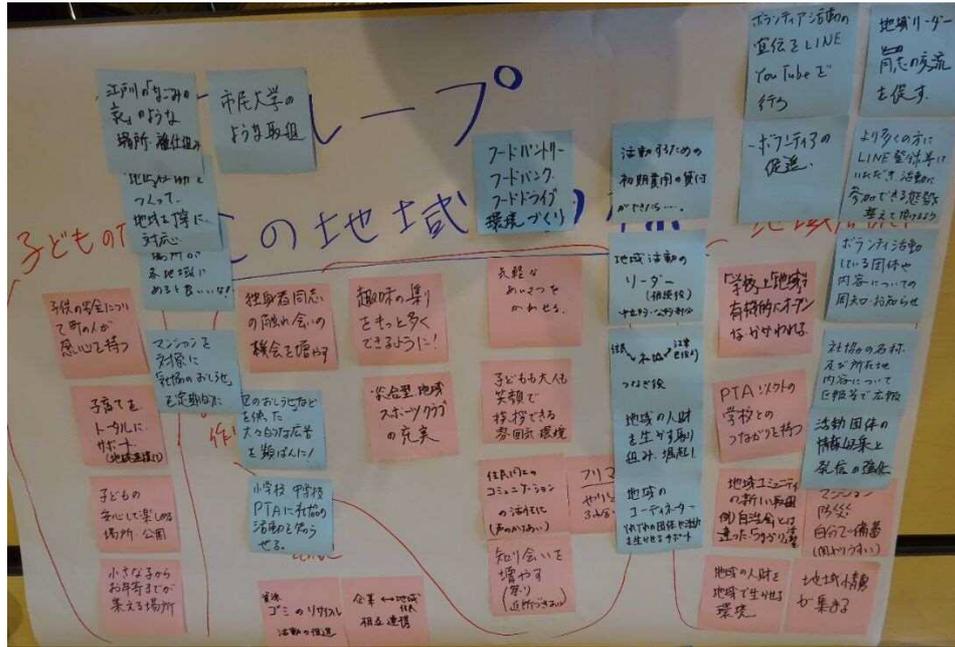






深川南部 3回目

3グループ 地域の活動目標と社協に期待すること



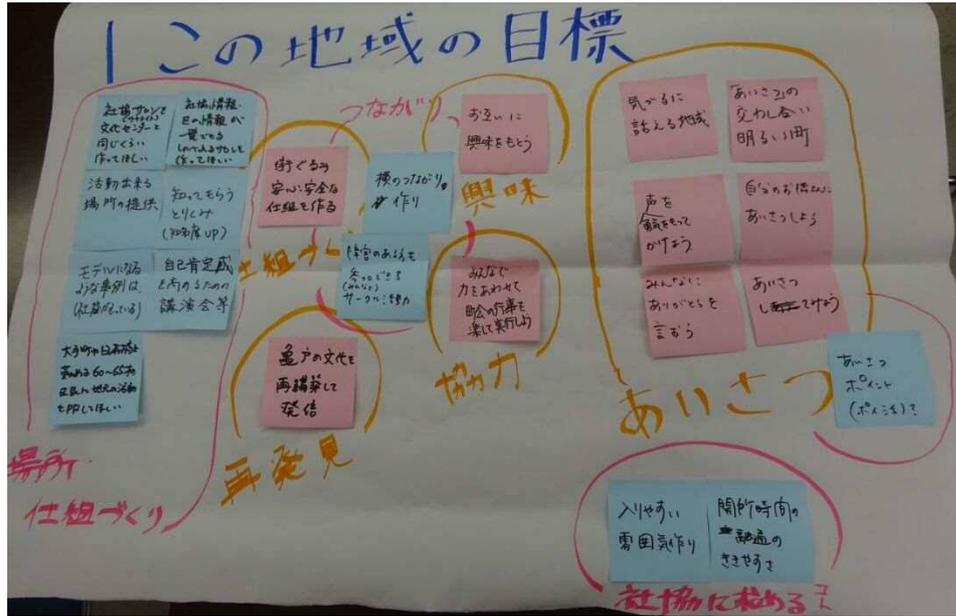
臨海部 3回目

4グループ 地域の活動目標と社協に期待すること



城東北部 3回目

1グループ 地域の活動目標と社協に期待すること



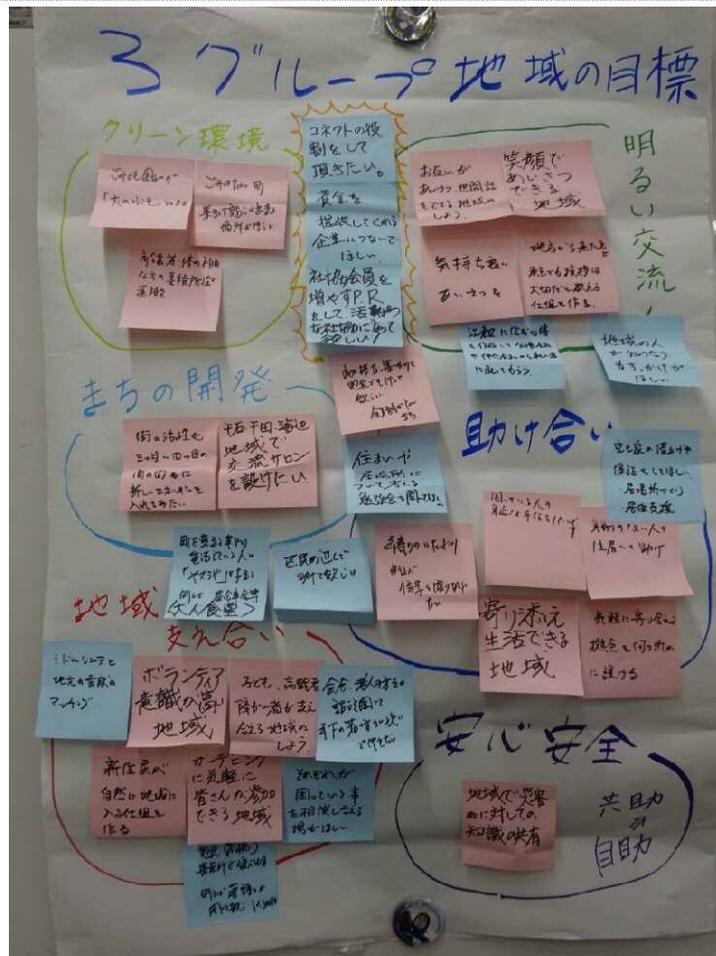
城東北部 3回目

2グループ 地域の活動目標と社協に期待すること









2023.4.19

砂町文化センター

13:30～15:30

# まちづくり 話し合い ひろば

参加 19名

「まちづくり話し合いひろば」では、日頃から感じている地域の福祉課題や強みを念頭においていただきながら、「福祉のまちづくり」のアイデアを出し合います。そのアイデアを第5次地域福祉活動計画の中に盛り込むことで、実際の活動へとつなげ、広げていくための機会とします。



## ワークショップ 地域のいいところ

1班



- ①商店が多い。砂町銀座の存在もとても大きい。スーパーもいくつかある。
- ②緑が多い。河川が多く散歩に恵まれており公園もたくさんある。
- ③交通の便が良い。鉄道は東西の線だけしかないが、南北のバスの線がとても便利。
- ④社会資源として、デイサービスや長寿サポートセンター、リハビリ施設が多い。
- ⑤マンションと一戸建てとがバランス良く建っている。

- ①交通の便の良いところ。
- ②砂町銀座と新しいショッピングセンター、団地と一戸建て等、普通は交わらないであろう者同士がうまく共存している。
- ③バスが便利。小名木川沿いの散歩が素敵。

住んでいて感じないこと・気づかないことに、他の方の意見を伺って気づくことがあり、話し合えて良かったと思った。



2班



3班

- ①環境。緑がたくさんあり散歩道がたくさんある。
- ②住みやすさ。子どもの声が多くなった。下町で高齢者の方が住みやすい。昔からの砂町銀座もある。
- ③人柄の良さ、人情深さ。たまにお隣さんが風邪を引いたと聞けば、そのお隣さんが煮物を持っていってくれたりするような昔の長屋のような生活の場所もある。
- ④気さくな人が多い。話に楽しく乗ってくれる。

4班



- ①交通の便が良い。バスがあって移動しやすく、買い物と病院に行くのに困らない。区内だけでなく区外へ行く場合にも動きやすい。
- ②公園に必ずトイレがある。子ども・高齢の方が出かける時にどこにトイレがあるか分からないと安心して出かけられないという方でも移動しやすい。
- ③緑が多く水辺も緑豊か。
- ④大きなお世話が通用する地域特性がある。地域行事がたくさんある。人の関わりが密。隣近所で助け合ったり、お母さんがしばらくらくいなくて留守番をしているお子さんの様子を周りで交代で見たりする関わりがある。

- 社会資源。買い物しづらい地域がある。細い道が多く夜になると暗い。障害のある方が暮らせるグループホームが少ない。
- 火の用心で回っていると「うるさい」と言って110番される等人情が通じない人もいる。
- 交通の便が悪い場所もどうしてもある。
- インターネットを使えない高齢者が多い。
- 銭湯が減っている。
- 砂町銀座の貸店舗が増えている。
- 単身向けの家賃の高い賃貸マンションが増えている。比較のお金の払える若い方は賃貸マンションに入るが、地域に根ざして何かしようという考え方はない。
- 北砂五丁目団地等URにインド人のお子さんが多いが、日本の学校に通っていないのでなかなか日本になじめない。
- 人とのつながり。マンションの自治会の高齢化、人とつながっていない、ボランティアの担い手として次の世代が出てこない。
- 居場所が欲しい。子育てや高齢化問題等まるごとどこに頼ったらいいのかというところ、社協に頑張っって欲しいと思うが、よろず相談の受け手が無い。



## まとめ



本日は、「地域のいいところ」と「地域の困りごと」をセットで考えました。そうすることで「地域の強みや」「地域の弱み」を浮かび

上がらせることができました。今回を基に、6月21日の2回目では、他の区全体の調査などの課題と突き合わせて振り返りを行います。

今日の「地域のいいところ」と「地域の困りごと」で出たご意見をもとに、次回2回目のワークショップでは「6年後にこうなったらいいなあ」と思う地域の目指すべき姿のビジョンを挙げていただき、共有し、個人でできる事、地域でできる事の目標を導き出したいと思います。

地域福祉活動計画担当 井上博



強調したいのは、むしろここで出てこなかった課題が、将来自分たちもぶつかった時に困ってしまう課題であるし、今地域の中で排除されている問題であるということ。

私たちが今やろうとしていることは一言で言えば「自治」。自分たちの望む暮らしは自分たちで作っていくということ、地域福祉とはそういうことだと思っています。その一歩として、今回「地域を見つめ直す」ということをしました。これが第2回以降のひろばにつながっていくんだらうと思います。社協職員の方たちがここからは「住民主体」で地域づくりをしていく、そして社協も一緒にやっていくという強い思いで、陰で努力していらっしゃるの、ぜひ拍手でたたえて差し上げて欲しい。

高崎健康福祉大学  
健康福祉学部 岡田哲郎 講師



第1回深川南部・臨海部 報告書

# まちづくり 話し合い ひろば

深川南部 8名  
臨海部 6名

2023.4.26

豊洲シビックセンター  
13:30～15:30

「まちづくり話し合いひろば」では、日頃から感じている地域の福祉課題や強みを念頭においていただきながら、「福祉のまちづくり」のアイデアを出し合います。そのアイデアを第5次地域福祉活動計画の中に盛り込むことで、実際の活動へとつなげ、広げていくための機会とします。



## ワークショップ 地域のいいところ

### 深川南部

1班

①景観がおしゃれ。海が見える。情報発信の注目スポットが多い。水辺が多く朝焼けがきれい。フレンドリーなカモメもいる。

②人が親切。知らない人でも気軽に話しかけてくれる。公園も多く子どもがのびのびと過ごせ、子どもの声がよく聞こえる。  
③コンビニが近く道が広くて利便性が高い。銀座に近い。



2班

①古い一軒家や下町情緒のあるところと新しい町が混在しているところ。町会が充実してお祭りがあるところ。新しい街では若い人が多く新しいワクワクするコミュニティができている。

②環境。運河があったり海が近かったりすると。木場公園、ぐるり公園等公園が多いところ。スポーツ施設、文化センターが充実している。総合病院もあり、大学が5つもある。新しい未来が作れる街。

③イベントが多い。木場公園の江東区民まつりには何十万という人が来る。避難所としても良い公園。



### 臨海部

3班

①新しいマンションの建設により、子どもの数が増え小学校が4つになった。子どもがたくさんおり、それは将来的には良いことなのだと思う。

②この豊洲地区は都市計画がしっかりしている。計画通りに街が作られていっているので道路がしっかりしていて歩道が広い。子ども連れでの散歩、運河沿いの散歩もでき、マンションは耐震構造で防災上の問題が少ない。

③生活に便利なスーパーが5つあり、どの店も歩いて2～3分ぐらいの範囲にありコンビニもたくさんある。

④交通の便が良い。羽田行きのリムジンが30分ぐらいで来るバス停もある。



## 深川南部

- コミュニティの希薄化。孤立している家族が多い。若い世帯が増えてお互いが関わり合う機会が少なくなった。
- 大学が5つあるが、大学と地域との交流がもっと深くあると、豊かな情報が地域の皆さんにも届きお互いに良い関係が築けるのではないか。
- 区役所前のガソリンスタンドがいつまでも使われないうまま古くなり、そこへゴミが投げ捨てられたりして環境が悪くなっている。
- 家賃が高く障害者施設の参入がかなわない。障害のある方が気楽に相談ができる場所がほしい。高齢者や障害者の方々が気楽に寄れるカフェ、若い親子が気軽に相談できる居場所があると良い。
- 子どもたちが安全に安心して公園で遊べない。不審者情報が放課後の時間帯に多く、警察が巡回しているとはいえ心配。人口の割に交番が少ない。
- 企業との連携が進んでいない。また、企業と住宅が混在しているエリアでは、朝や夕方の通勤の時間帯に、歩いていくサラリーマンたちの間を縫うように信号を渡らなければならない。



## 臨海部

- マンション居住者と都営住宅居住者との交流がない。
- 豊洲文化センターを利用しようとも手続きが難しい・利用のハードルが高い・これから何か始めようと思っても仲間集めが難しい。 →一軒家があれば、借りられるか(そもそもない)。



本日は、「地域のいいところ」と「地域の困りごと」をセットで考えました。そうすることで「地域の強みや」「地域の弱み」を浮かび上

がらせることができました。今回を基に、6月28日の2回目では、他の区全体の調査などの課題と突き合わせて振り返りを行います。

今日の「地域のいいところ」と「地域の困りごと」で出たご意見をもとに、次回2回目のワークショップでは「6年後にこうなったらいいなあ」と思う地域の目指すべき姿のビジョンを挙げていただき、共有し、個人でできる事、地域でできる事の目標を導き出したいと思います。

地域福祉活動計画担当 井上博



皆さまのお話を聞いていると、コインの裏表のように、プラスだと思っていたことがマイナスに反転していった。きらびやかな雰囲気の中で孤立が生まれていたり、所在ない人がいたり、住んでいる人ならではの住みに

くさや不満がたくさん話され、新鮮に感じました。これをどうプラスに転換していくか。古いものと新しいものを融合させ、新陳代謝を繰り返してきたこの地域の中で、異質な要素を掛け合わせて価値を生み出していく。集まっている方々も一人ひとりが意外性を持っていて、文化の担い手であると考え、このように人が出会って継続的に話し合い、つながっていく場自体が貴重になるのだなと感じました。2回目以降のひろばで、皆さまがどんな地域、もっと大きな社会の将来像を描いていくのかに注目したいと思います。

高崎健康福祉大学  
健康福祉学部 岡田哲郎 講師



▶▶▶ 第1回城東北部 報告書

# まちづくり 話し合い ひろば

参加 21名

2023.5.17

総合区民センター

13:30~15:30

「まちづくり話し合いひろば」では、日頃から感じていらっしゃる地域の福祉課題や強みを念頭においていただきながら、「福祉のまちづくり」のアイデアを出し合います。そのアイデアを第五次地域福祉活動計画の中に盛り込むことで、実際の活動へとつなげ、広げていくための機会とします。



## ワークショップ 地域のいいところ

1班



①街の環境：自然、公園、買い物できる場所が多い。②交通：バスが走っていて交通の便が良い。③町会・自治会：まとまっていてコミュニケーションが取れている。④助け合い：高齢者のサポート、ゴミ捨ての助け合いがきちんとできている。⑤人とのつながり：すごくできている。下町の情報、インドをはじめとした外国の方ともコミュニケーションが取れている。⑥施設：図書館や児童館が整っている。⑦食...おいしいお店が多い。夕方になるとスパイスの良い香りが漂う。

①人との関わり・人情：人柄が良い。共助の心がある。②交通：便が良い。外出時にはバスや電車、高速道路が近くて便利。③公園・緑：JKKの住宅の中にも子どもが遊べる広い公園がある。通りから中に入れば静か。④買い物...利便性が良い。⑤施設・自治会...70%を超える加入率の自治会もある。少子化なのに保育園・幼稚園が合わせて3つもあるので子育て世帯が多く移り住んでいる。

2班



3班

①利便性：総武線と都営新宿線と横に2本鉄道あり、縦はバスが頻繁に走っていて便利。大島は横に長いので駅が3つもありいい場所。②生活：スーパー、商店がたくさんあって生活がしやすい。亀戸には大型の商店も充実している。高齢者の方も多く元気に過ごしている。戸建てを買った若い方も増え小学生が増えていく。昔ながらの下町情緒、近所付き合いも残っている。③施設：区の施設が充実している。病院、クリニック、学校、保育園等も多い。

4班



①人との触れ合い：挨拶がすぐに返ってくる。野菜の育て方を聞いたらすぐに教えてくれる。②商業：発展している。商店街がしっかりして買い物が便利。銭湯がある。商店街や地域の会社がしっかりしているために、会社がスポンサーになって中央公園で花火をあげたりする等の地域貢献が生まれているのではないかと。③街・環境：亀戸天神、羅漢寺、梅屋敷といった歴史的な環境もしっかりと残っている。元々このあたりの地域は浮世絵等にも描かれたように、江戸の中心地から1日で楽しみに来て日帰り帰るといったエリアだったのでないかと。発展しつつのんびりしている雰囲気もあるのは、そのような歴史的な背景もある。

○高齢になってごみ捨てるルールを守れなくなった方や、若くて守らないまた、外国人の方のごみ出しがうまくいっていない。

○空き家がそのままになっている。また、集合住宅・雑居ビルの老朽化による治安悪化の懸念がある。

○シェアハウスになった元空き家の住民とのコミュニケーション不足。

○集合住宅が増えている一方、若い人等は挨拶ができない。

○独居高齢者が多くなりコミュニティづくりが難しくなってきた。

○外国人とのコミュニケーションがとりにくい。

○商店・銭湯の閉鎖で不便さが出てきた。

○マンション内の住民同士でも挨拶をしても返事が返ってこなかったりする。関わりが薄くなっている。災害時助け合えるのか不安。。

○町会・自治会...会長・役員等のなり手がおらず負担が増えたり組織が続かなくなっていたりする。

○高齢者や障害者にとって水害での避難は不安があると思われる。



## まとめ



本日は、「地域のいいところ」と「地域の困りごと」をセットで考えました。そうすることで「地域の強みや」「地域の弱み」を浮かび

上がらせることができました。今回を基に、7月19日の2回目では、他の区全体の調査などの課題と突き合わせて振り返りを行います。

今日の「地域のいいところ」と「地域の困りごと」で出たご意見をもとに、次回2回目のワークショップでは「6年後にこうなったらいいなあ」と思う地域の目指すべき姿のビジョンを挙げていただき、共有し、個人でできる事、地域でできる事の目標を導き出したいと思います。

地域福祉活動計画担当 井上博



印象深かったのは、とても急激に発展していく街を支える伝統があったり、1グループの渡辺さんが外国籍の住民の方を「宝」と表現されていて、新しいもの・異質なものと、旧来のものとの反発し合わないで融合し

合っていく動きがあるのだと感じた。そこで緩衝材になっている動き、土台になっている動きがきつとこの地区の、そして江東区の宝になっているのだなど改めて思った。社会資源はこれから爆発的に増えていくものではないが、今あるものをニーズに合うようにリメイクしたり、組み合わせたりする中でどのように課題を乗り越えていくか、社協や専門職の方も一緒に、これから新しい変化や地域のビジョンを第2回以降に皆さまがどう作っていくのか注目したいと思う。引き続きよろしく願います。



高崎健康福祉大学  
健康福祉学部 岡田哲郎 講師

▶▶▶ 第1回深川北部 報告書

# まちづくり 話し合い ひろば

参加 20名

2023.5.24

千石地区集会所

13:30~15:30

「まちづくり話し合いひろば」では、日頃から感じている地域の福祉課題や強みを念頭においていただきながら、「福祉のまちづくり」のアイデアを出し合います。そのアイデアを第5次地域福祉活動計画の中に盛り込むことで、実際の活動へとつなげ、広げていくための機会とします。



## ワークショップ 地域のいいところ

### 深川北部

#### 1班



- ①お祭り：今年8月13日に本祭りがあり盛り上がる。町内が連携してコミュニケーションが取れる。
- ②近所付き合い・下町の良さ。
- ③交通の便：有楽町線の延伸。千石2丁目に駅が出来る。東西線も便利。人形町が近い。
- ④施設・公園：清澄白河を中心に、現代美術館、木場公園等。スーパーも多い。水辺を散歩できる。インターナショナルスクールもあり国際的。
- ⑤社協：近くて相談しやすい。

#### 2班

- ①食：おいしくて安い店が多い。
- ②子ども・若者：若い夫婦が協力的に見える。「本当か？そんなのいないぞ？」という話も出たが...
- ③暮らし：長く住んでいる方から下町の雰囲気が感じられるという話が結構出た。
- ④環境：緑・公園・水路が多く夜はきれい。
- ⑤利便性：交通の便が良く道が広い。スーパー・コンビニが多い。一方で潰れている店も多いよねという話もあった。



#### 3班



- ①人とのつながり：人付き合いが残っている。おすそ分けがある。ゲートボールに100歳の方が参加されていて、みんなその方を目標に頑張っている。冬木ではお祭りをやるとお金が集まる。お金持ちが多い。
- ②交通の便：碁盤の目になっていて道が分かりやすい。
- ③環境：水辺がある。公園がある。新しいカフェがたくさんできている。
- ④施設：公共施設が多い。文化センター等では各種講座が多い。相撲部屋も多い。生涯学習も含めて住みやすい街ではないか。

- 外国籍の方ごみの分別マナーができていない。難しい面もあるのかもがと思う。
- 信号無視をする人が多い。車の赤信号無視も1度見たことがある。
- 耐震工事の必要な古い民家が多いのではないか。
- 千石駅の開発が心配。
- 障害のある方の住居が困る(足が悪いのに2階に住んでいる等)。
- 建て壊しによる立ち退きが多い。また、家賃が高い。
- 人付き合いが疎遠になっている。新しい住民とのコミュニケーションが難しい。
- 脚も痛いし腰も痛い中、もし何かあった時にどのように避難すれば良いか不安。
- 個人商店がひっそりと閉店し少なくなっている。
- 障害者が働ける場所が少ない。
- 障害のある方との付き合い方が分からない。
- 町会・自治会活動に若い世代の人が入ってこない。老人クラブも含め役員のなり手がいない。将来・老後への不安がある。
- 世代間の価値観の違い。
- 遊び場でもあれをやってはだめ、これをやってはだめといった制約事項が多い。
- 世代間の連携がうまくいかないと持続しないため若い世代が入ってこれるような手立てが必要。
- ネット社会になっていることにより個人情報簡単に扱われ簡単に漏洩し色々な問題が起こるため、皆さん過敏になっていてなかなか打ち解けられない。



本日は、「地域のいいところ」と「地域の困りごと」をセットで考えました。そうすることで「地域の強みや」「地域の弱み」を浮かび上

がらせることができました。今回を基に7月26日の2回目では、他の区全体の調査などの課題と突き合わせて振り返りを行います。

今日の「地域のいいところ」と「地域の困りごと」で出たご意見をもとに、次回2回目のワークショップでは「6年後にこうなったらいいなあ」と思う地域の目指すべき姿のビジョンを挙げていただき、共有し、個人でできる事、地域でできる事の目標を導き出したいと思います。

地域福祉活動計画担当 井上博



これまでは区の文化センターでの開催で、このような集会所で行うのは今回が初めてであった。やはり雰囲気が変わって、皆さまアットホームに意見交換をされていた。暮らしの文化や

日常を感じながら意見交換をやるのが良いと感じた。これから人ももっと流動化して未知の事態に直面していく中で、共通の課題としては今の暮らしのありようをどう持続可能なものにしていくか。既存の発想を飛び越えて、今つながっていない方ともつながって、というところが根っこの課題なのかなと思った。地域づくりで忘れてはいけないのは、この場にいない他者にどう目を向けるかということと、こういう場で出てこないものの中に本当の課題があるという想像力が大事。そのようなことを考えながら2回目以降のビジョンづくり、この地域を6年後どうしていきたいか、その方法を皆さまがどうつくっていくのかに注目したい。

高崎健康福祉大学  
健康福祉学部 岡田哲郎 講師

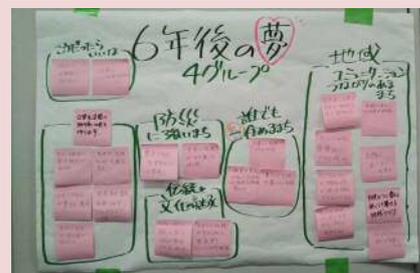


## 》》 第2回城東南部 報告書

2023. 6. 21  
砂町文化センター  
13:30～15:30

# まちづくり 話し合い ひろば

参加者29名



「まちづくり話し合いひろば」では、日頃から感じている地域の福祉課題や強みを念頭においていただきながら、「福祉のまちづくり」のアイデアを出し合います。そのアイデアを第5次地域福祉活動計画の中に盛り込むことで、実際の活動へとつなげ、広げていくための機会とします。

## あつまる！ つながる！ やってみる！



地域福祉活動計画策定委員 高崎健康福祉大学 健康福祉学部 岡田哲郎 講師



今回の「まちづくり話し合いひろば」では、ビジョンを作っていくこと、変化をどう起こしていくかを考える時間だった。一人ひとりのアイデア、チカラ、エネルギーをつなげていけば、地域でできることはもっとあるのではないかと。ただ一方で、変化を起こしていく、変化をイメージするにあたって、地域の中の人だけでできるかということ、できない。地域の外の人とつながったり、目を開くための学習を継続的に行うことが大切。

今後ゆるくつながり続けていく場をどう作っていくか。それも公的に作ると堅苦しくなってくるので、住民のみなさんがしっかり運営していくことが大切。3回目のワークショップはその道筋をどうつけていくかということを考えることと思います。

## 6年後こうなったらいいな 目指す地域の姿 一部抜粋

- ・ ボランティアや担い手が多くいる地域
- ・ 色々な世代の人とコミュニケーションが取れる場所がある地域
- ・ 集合住宅の入居者同士、入居者と地域住民との交流が日常的にできる地域
- ・ 色々な情報に簡単にアクセスできる社会
- ・ 助けたり助けられたりという支え合いができる地域
- ・ ゴミ出しのルールが守られている地域
- ・ 居場所や相談する場所がある地域
- ・ 活動団体や後継者が育成され、活動団体の交流が進んでいる地域
- ・ 福祉のワンストップサービスができる地域
- ・ ボランティアが「ボランティアである」という意識がなくなって、当たり前になる地域
- ・ つながるための居場所がある地域
- ・ 交流し、相談し、共助ができる地域
- ・ 表札、名札がある地域
- ・ 自分たちのモラル、子どもに見せる親のモラル、これらをレベルアップできている地域
- ・ 外国人の方に対して偏見や差別がなく、異文化交流が盛んな地域
- ・ 祭りに多くの住民が参加でき、砂町銀座のようにモダンと伝統が活かされている場が継承された地域

## 自分・地域・団体で できること 一部抜粋

- ・ 集会所を居場所として活用していきます。
- ・ 高齢者の話し相手になります。
- ・ 自分の足元の活動を地道に続けていきます。
- ・ ボランティアができる心の余裕を作ります。
- ・ 食事づくりのお手伝いや見守りをします。
- ・ 事業所を利用している人もボランティアとして一緒に活動します。
- ・ 地域のイベントにできる限り参加します。
- ・ 人とつながる機会を大切にします。
- ・ つながりの輪を広げます。
- ・ おせっかいパワーをアップします。
- ・ 何事もすぐに結果が出るわけでもないけれど、心が折れそうになっても声を挙げ続けます。
- ・ みんなで協力し居場所づくりにみんなが参加します。
- ・ つながりをつくるにはまず人との交流が大事。そのために自分のできることをします。
- ・ 今活動している人は健康を維持し、やめないうで続けていきます。
- ・ 役員任せにしないで、町会の行事に参加していくことで、役員だけでなく会員が参加できる開かれた町会に改革していけるように住民として関わっていきます。
- ・ 自分たちが〇〇の宣伝マンになり、団体がやっていることを発信し自分たちの活動を周知します。
- ・ 若い人たちの協力を求めます。



第2回目のまちづくり話し合いひろばでは、地域の課題を振り返り、「6年後こうなったらいいなと思う地域の姿」と、それに対して、「自分でできること」のワークショップを行いました。日頃、地域活動をされていない方がみなさんのご意見（自分ができること）を見て、「このように活動すればいいのか」と、参考（指針）になったのではないのでしょうか。

## 》》 第2回深川南部・臨海部 報告書

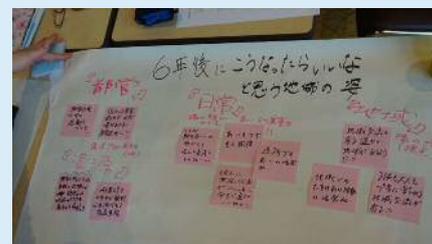
2023.6.28

豊洲文化センター

13:30~15:30

# まちづくり 話し合い ひろば

参加者 17名



「まちづくり話し合いひろば」では、日頃から感じている地域の福祉課題や強みを念頭においていただきながら、「福祉のまちづくり」のアイデアを出し合います。そのアイデアを第5次地域福祉活動計画の中に盛り込むことで、実際の活動へとつなげ、広げていくための機会とします。

## あつまる！つながる！やってみる！



地域福祉活動計画策定委員 高崎健康福祉大学 健康福祉学部 岡田哲郎 講師



振り返りのシートにはヒアリングを実施した際の感想として、「生活に本当に余裕がなくぎりぎりだ」という声があって、6年後の街のビジョンを描く余裕のない個人、孤立している個人、こういう人たちに響いていくビジョンを作っていかなければならない。皆さんはこの場にいらっしゃらない人の声に耳を傾けていかなければならない。

「助けてください」といような内容は、自分でも気づきにくい悩みであったりして、人と話している時に『ああ、自分は悩んでいるんだな』と気づくようなもの。そのように人と関わり合い気づき合えるような、自然で継続的な付き合い、こういう場をどう作っていくか、元々地域に根付いているものと従来なかった発想や仕掛け組み合わせていくことが必要。

## 6年後こうなったらいいな 目指す地域の姿 一部抜粋

## 自分・地域・団地で できること 一部抜粋

### 深川南部

- ・都営住宅にたくさんあるスペースを有効活用して、横でつながることのできる居場所がある地域
- ・長屋の付き合いの頃のような、日常生活の中で挨拶や付き合いがある地域
- ・挨拶からつながりを作っていける地域
- ・地域交流、地域での助け合いの活動が活発化した地域
- ・障害のある方や地域の方が気軽に集まれるような場がある地域
- ・多世代交流の居場所がある地域
- ・困っている人に気軽に手助けのできる地域

- ・自治会活動が「楽しい」と思えるようなものにしていきます。
- ・団地の集会所が居場所づくりに役立てていけるようにしていきます。
- ・健常者の方も障害者の方も楽しく交流できるようにユニカールやボッチャを色々なところで普及して楽しんでいきます。
- ・自分が住んでいる団地を中心にコミュニティづくりをします。
- ・知り合いにどんどん声をかけて仲間を増やしていきます。
- ・地域の方が「お客様」として参加するだけではなく「主体者」として実施していけるようにしていきます。
- ・活動する場所、借りられる場所を作ります。

### 臨海部

- ・住民同士が協力し合える地域のボランティアが活躍できる地域。
- ・シェアハウスのような形で、大学生には家賃を補助する代わりに、困りごとの手伝いや地域の活動に参加してもらう地域
- ・戸建てがない、マンションエリアでの多世代交流の場がある地域
- ・デイサービスが多数ある地域

- ・災害時に大学生等若い方に協力してもらえよう、日頃から若い方が地域活動に参加できるようにします。
- ・シビックセンターだけでなく、東雲1丁目や2丁目等、各地域で小さなカフェ（居場所）を催していきます。
- ・集まった方の中で得意分野を持っている方がいたら、そこから派生して新たな集まりを催していきます。
- ・声をかけ、知り合いを増やし、輪を広げていきます。



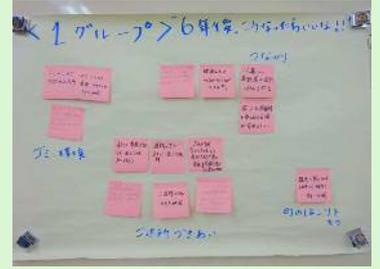
第2回目のまちづくり話し合いひろばでは、地域の課題を振り返り、「6年後こうなったらいいなと思う地域の姿」と、それに対して、「自分でできること」のワークショップを行いました。日頃、地域活動をされていない方がみなさんのご意見（自分でできること）を見て、「このように活動すればいいのか」と、参考（指針）になったのではないのでしょうか。

## 》》 第2回城東北部 報告書

# まちづくり 話し合い ひろば

2023. 7. 19  
総合区民センター  
13:30~15:30

参加者17名



「まちづくり話し合いひろば」では、日頃から感じている地域の福祉課題や強みを念頭においていただきながら、「福祉のまちづくり」のアイデアを出し合います。そのアイデアを第5次地域福祉活動計画の中に盛り込むことで、実際の活動へとつなげ、広げていくための機会とします。

## あつまる！つながる！やってみる！



地域福祉活動計画策定委員 高崎健康福祉大学 健康福祉学部 岡田哲郎 講師



2回目なので交流自体を楽しんでいらっしゃる様子があった。私も2回目なので何もしていなかったが心地よさがあった。存在を認めるということだと思います。

「限りある時間の使い方」という本をご存知でしょうか。人生は4,000週間しかないという本で、その限られた時間の中で、意義ある時間だと思ってみなさんはここに集まっているが、効率重視できりきり舞いで生活している方もいる。ということを見ると、息をするように関われる地域とは何なのか。極端な話、明日人生が終わるとしても

関わっていたいと思える地域とは何なのか。ヒントは今のこの場にあると思う。緩く、強制されない活動、つながりの場で、中心が大きくなく、常連であり固まらない等の場だと思う。今日出た意見から身の丈の一步を踏み出していけば先につながっていくと思う。

第2回目のまちづくり話し合いひろばでは、地域の課題を振り返り、「6年後こうなったらいいなと思う地域の姿」と、それに対して、「自分でできること」のワークショップを行いました。

## ワークショップ

### 6年後こうなったらいいな 目指す地域の姿 一部抜粋

- ・ゴミ出しがしっかりされ、ゴミが資源としてリサイクルされる地域
- ・誰でも気軽に寄り合える場がある地域
- ・近所づきあいで挨拶があり、助け合いのある地域
- ・障害者に親しみをもってもらえる障害理解が進んだ地域
- ・AI技術などを駆使して街ごと見守りシステムがある地域
- ・町会・自治会の若返りがある地域
- ・街の中に段差がなく、車いすでもシルバーカーでもスイスイ通れる地域
- ・災害に強い街づくりができていく地域
- ・外国の人との交流・つながりがある地域
- ・地域の新住人（新しいマンション等）との交流のある地域
- ・子育てしやすい（子どもがたくさんいる）地域
- ・ひきこもりの人を出さない、孤立させないで明るく声をかけ合う地域
- ・地域の高齢者が子どもの見守り、預かりなどを行っている地域
- ・飲食店（居酒屋含む）が困っている人の相談窓口になっている地域

### 自分・地域・団体で できること 一部抜粋

- ・おせっかいも大切にする
- ・話のきっかけづくりの工夫（植木を手入れしている方に声をかける等）
- ・まつり後の鉢洗いで楽しかったことなど意見を出してもらい、次回につなげている。継続していきたい。
- ・月に1回の清掃ボランティアを行っていた
- ・自分の専門分野や人脈を使って、まずは自分が相談窓口になる
- ・新しい地域コミュニティづくりのお手伝い
- ・自分の家の前など身近なところの清掃
- ・地域の住民の方への声かけ・挨拶
- ・地域の子どもや高齢者への記念品、誕生日プレゼント
- ・あいさつをする習慣
- ・地域の環境を良くするためには先ずご近所で活動や話し合いができる場所づくりをする
- ・助け合いの街になるためには街の中にいる障害者や困っている人に積極的に声をかけ、行事等への勧誘や情報提供をする
- ・商店会として若い世代へのシンプルで健康的な食生活の提案、また地域交流の場としてのイベントやお祭りの開催
- ・ゴミ拾い、片付けも協力を求めつつ行う
- ・自分が直接おこなう手助けと、周りの人に手助けの協力を求める声をあげる手助けもある。うまく周囲を巻き込むことも大切



日頃、地域活動をされていない方がみなさんのご意見（自分でできること）を見て、「このように活動すればいいのか」と、参考（指針）になったのではないのでしょうか。

## 第2回深川北部 報告書

2023. 7. 26  
千石地区集会所  
13:30~15:30

# まちづくり 話し合い ひろば

参加者 18名



「まちづくり話し合いひろば」では、日頃から感じている地域の福祉課題や強みを念頭においていただきながら、「福祉のまちづくり」のアイデアを出し合います。そのアイデアを第5次地域福祉活動計画の中に盛り込むことで、実際の活動へとつなげ、広げていくための機会とします。

## あつまる！ つながる！ やってみる！



地域福祉活動計画策定委員 高崎健康福祉大学 健康福祉学部 岡田哲郎 講師



自分に引き寄せて「うまくいく計画」とは何なのだろうと考えてメモを取っていた。

1点目、計画は変化を起こすものなので、まずは自分の限界を受け入れること。「今のやり方がこの先うまくいかないと思ったタイミングで立てる。」2点目、できないと嫌になってしまうため、無理な計画、壮大なビジョンを描かず、身の丈の、「できることを積み上げていく計画」が続いていくもの。3点目、6年後は長い。計画はあくまでもその時の情報に基づいて立てたものなので、先ばかり心配しても見えない。

計画はあくまで今ある情報の中で立てた、今の時点での考えに過ぎないので、不確定な要素もしっかりその時その時に受け止めて、柔軟に動いていける場・関係ができることが大事なこと。一步一步楽しんで参加して動いていかないといけない。楽しんで進んでいると人を呼び込み、一步一步楽しんで歩いていった先に6年後の未来ができていくと思う

第2回目のまちづくり話し合いひろばでは、地域の課題を振り返り、「6年後こうなったらいいなと思う地域の姿」と、それに対して、「自分でできること」のワークショップを行いました。

## ワークショップ

### 6年後こうなったらいいな 目指す地域の姿 一部抜粋

- ・全ての区民が安心安全に暮らせる地域
- ・つながっている地域
- ・障害の有無に関係なく、生活支援がある地域
- ・障害者も地域で生活できる環境がある地域
- ・災害に強い地域
- ・人々がお互いを尊重出来る地域
- ・お互い助け合える地域
- ・若い方が町会に楽しく参加できる地域
- ・かつての下町のような誰でも気軽に話せる地域
- ・外国の方と交流できる地域
- ・子どもが遠慮なく遊べる場所がある地域
- ・静かに過ごせる場所がたくさんある地域
- ・町の中に緑が多い地域
- ・誰もが災害時すばやく避難できる地域
- ・住民同士がつながっていける地域
- ・全国から共生社会のモデルと言われる地域
- ・新住民が地域とスッと溶け込める仕組みがある地域
- ・互いに尊重される地域
- ・挨拶を進んで行う地域
- ・世代を超えてコミュニケーションが出来る地域

### 自分・地域・団体で できること 一部抜粋

- ・サロンを開いている。参加者を増やし高齢者のつながりを広げていく
- ・町内パトロール
- ・地域の災害発生時に会社の施設の一部開放
- ・一人暮らしの高齢者・障害者が多いため、災害時は安否確認が必要。行政とサービス事業所で連携していく
- ・お互い助け合える地域ができるよう、ボランティア活動を広げていく
- ・自ら挨拶してみる
- ・催し物への積極的な参加
- ・町の人が交流できる町会会館の建設を働きかける
- ・交流やイベントへの参加
- ・障害者施設との交流
- ・障害者施設の利用者が買い物代行し地域活動者となる
- ・地域防災ボランティアに参加
- ・誰かの役に立ちたい
- ・イベントのお手伝いをする
- ・まずは自分の周りの人々に親切に接する
- ・障害のある方と市民の方との接点を作っていく、相互理解を図る
- ・障害者と大家さん、不動産屋さんとのつながりを作っていく
- ・防災の危険を叫び続ける
- ・運転できるので近所の送迎をする



日頃、地域活動をされていない方がみなさんのご意見（自分でできること）を見て、「このように活動すればいいのか」と、参考（指針）になったのではないのでしょうか。

## 第3回城東南部 報告書

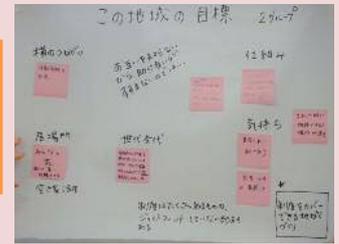
2023.8.23

砂町文化センター

13:30～15:30

# まちづくり 話し合い ひろば

参加者19名



「まちづくり話し合いひろば」では、日頃から感じている地域の福祉課題や強みを念頭においていただきながら、「福祉のまちづくり」のアイデアを出し合います。そのアイデアを第5次地域福祉活動計画の中に盛り込むことで、実際の活動へとつなげ、広げていくための機会とします。

## ワークショップ

# あつまる！つながる！やってみる！



### 地域の活動目標 主な意見

- ・あいさつをしよう
- ・世代交流していこう
- ・地域の方を間接的、直接的にゆったりと見守り、助け合いをしよう
- ・問題を一緒に考えて解決を目指そう
- ・話し合い、楽しい仲間づくり、助け合いをしよう
- ・居場所をつくって、つながり交流しよう
- ・地域の中で情報を共有していこう
- ・世代交流していこう
- ・様々な方が安心して暮らせる地域にしよう

## 社協に期待すること 主な意見

- ・アウトリーチによる地域支援
- ・地域情報を収集し、その情報を地域に情報提供
- ・若い世代の声を拾い上げる場づくり
- ・地域から頼れる社協
- ・住民と社協の顔がつながり気軽に相談できるようにする
- ・社協が知られていない、もっと周知PR
- ・誰もが集える居場所づくり



- ・つながりづくりのきっかけになる場を企画
- ・町会・自治会と活動団体のつながる仕組みづくり
- ・ボランティアの人材育成システムの整備
- ・意見や要望を取り入れて形となるシステムづくり
- ・活動団体が交流する場づくり
- ・課題へ寄り添い伴走する（助成金・補助金・仲間探し）
- ・サテライト社協の増設
- ・制度の狭間の支援（なければつくる、とにかくつくる）
- ・社協内連携を徹底して欲しい
- ・空き家バンクのような事業を立ち上げて欲しい

地域福祉活動計画策定委員 高崎健康福祉大学 健康福祉学部 岡田哲郎 講師



私の好きなパペットアニメーションに「チェブラーシカ」というものがある。ご存知の方はいらっしゃるか？お猿さんのようでお猿さんではない、正体不明の生物で、かわいいキャラで、ワニのゲーナ等の仲間と一緒に日常を紡いでゆくアニメで、今日思い出したシーンがあった。孤立・孤独している人がいっぱいいるということに気付いたチェブラーシカ達がみんながつながれる建物をつくろうということで、妨害する人もいる中、苦勞して出来上がり、セレモニーをする。チェブラーシカがとても喜んで

「では皆さん、孤独な人はここに名前を書いて下さい」と言ったところ、「どうして？だってみんな友達だよ」ということでそれぞれの家に帰っていくという有名なシーン。

本来つながりとか関係は、自然に協働関係を紡いでいって、段々と出来上がり紡がれてゆくものなのだという。無理やりつくっていくものではないということに改めて共有できれば良いと思った。

3回の「まちづくり話し合いひろば」では、「地域のいいところ」「地域の困りごと」「6年後こうなったらいいな。地域の目指す姿」「自分・地域・団体でできること」「この地域の活動目標」「社協に期待すること」など、地域福祉活動計画策定に向けて、皆様からのご意見を頂きました。ありがとうございました。この『まちづくり話し合いひろば』は、策定だけでなく、それぞれの地域のゆるやかなプラットフォームとなるように、地域の方の手により、まちづくり、地域づくりが推進されるよう社協が継続して開催していきます。  
(総務課総務担当 井上)

## 第3回深川南部・臨海部 報告書

2023. 8.30

豊洲文化センター

13:30~15:30

# まちづくり 話し合い ひろば

参加者 17名



「まちづくり話し合いひろば」では、日頃から感じている地域の福祉課題や強みを念頭においていただきながら、「福祉のまちづくり」のアイデアを出し合います。そのアイデアを第5次地域福祉活動計画の中に盛り込むことで、実際の活動へとつなげ、広げていくための機会とします。

## ワークショップ

# あつまる！つながる！やってみる！



### 地域の活動目標

### 主な意見

#### 深川南部

- ・気軽に挨拶しあえるまちにしよう
- ・町会、自治会が主体の地域交流の場をつくろう ・地域住民、地域活動団体がつながろう
- ・人が親しく優しく、いつもつながるように、皆が明るく挨拶しよう
- ・徒歩圏内で井戸端会議ができるような仲間づくりのできる居場所をつくろう
- ・多様性を認め理解しよう ・防災で地域がつながるきっかけをつくろう
- ・子供が安全に遊べる場を整備しよう ・地域で子供について関心をもとう
- ・学校と地域がつながろう ・町会、自治会以外で新たなコミュニティをつくろう

#### 臨海部

- ・人と人がつながり、気軽にあいさつできるようにしよう
- ・近所の人々が日々顔を合わせるような場所を作ろう
- ・個々の集合住宅の枠を超えたコミュニティを作ろう

## 社協に期待すること

### 主な意見

#### 深川南部

- ・まちづくり話し合いひろばの継続
- ・若い（大学生など）方を巻き込んだイベントの企画
- ・相談窓口の周知として社協クリアファイルを作成しPR
- ・職員はもっと地域に出向いて欲しい、アウトリーチで人をつなげる
- ・サテライト社協の増設
- ・明確でシンプルな情報提供
- ・社協カフェの工夫
- ・HPアクセス方法の改善（ボランティア情報の収集が困難）
- ・区役所とのつなぎ役
- ・地域企業に参加してもらえる工夫
- ・特技を持った方の人材の掘り起こし
- ・ラインやYouTubeなどを活用し社協活動の周知
- ・若い世代がいる学校やPTAとの連携に注力
- ・福祉活動の仕組みや環境の整備
- ・ボランティアの人材育成として市民大学を開催
- ・地域活動者同士の交流会の開催
- ・行政の下請け機関としてではなく、地域福祉の推進役として地域を引っ張って行って欲しい



#### 臨海部

- ・町会、自治会をつなぐ
- ・行政と住民をつなぐ
- ・人が集うイベントの企画、運営
- ・社協事業のPR強化
- ・近隣住民が集い、気軽なおしゃべりと情報交換ができる場所の設置
- ・社協のサテライトの増設



地域福祉活動計画策定委員 高崎健康福祉大学 健康福祉学部 岡田哲郎 講師



『ちいかわ』皆さんご存知だろうか？小2の娘がとても楽しみにしており一緒に見ている中ではまってしまった。ちいかわ、ハチワレ、うさぎといった登場人物たちは草むしりや、何か怖いものを討伐することで生計を立てていて、結構過酷な世界。そのような中どうやって生きているかというと、好きなものであったり、美味しいものを食べたりして、小さい幸せ探しが上手で、支えてくれる友達、一緒に喜び合う他者がいる。何で人気なんだろうと考えると結構自分たちの生活とリンクしていて、みんな孤独な環境の中で小さい拠り所を糧にして前を向いて生きている、それから私たちは孤独の中で寂しさの中で磨いていく力も大切だし、やはりそれ以上に他者の力が必要なんだということがすごくじんわり思われる作品。

このまちづくり話し合いひろばは、市場経済に覆われ尽くしている仕組みの中で、見えにくい、いわばそういう「ちいかわ的な生きる力」を地域の中から引き上げようとしたそういう取り組みでもあったのかなと思う。

3回の「まちづくり話し合いひろば」では、「地域のいいところ」「地域の困りごと」「6年後こうなったらいいな。地域の目指す姿」「自分・地域・団体でできること」「この地域の活動目標」「社協に期待すること」など、地域福祉活動計画策定に向けて、皆様からのご意見を頂きました。ありがとうございました。この『まちづくり話し合いひろば』は、策定だけでなく、それぞれの地域のゆるやかなプラットフォームとなるように、地域の方の手により、まちづくり、地域づくりが推進されるよう社協が継続して開催していきます。  
(総務課総務担当 井上)

## 》》 第3回城東北部 報告書

# まちづくり 話し合い ひろば

2023. 9. 20  
総合区民センター  
13:30~15:30

参加者19名



「まちづくり話し合いひろば」では、日頃から感じている地域の福祉課題や強みを念頭においていただきながら、「福祉のまちづくり」のアイデアを出し合います。そのアイデアを第5次地域福祉活動計画の中に盛り込むことで、実際の活動へとつなげ、広げていくための機会とします。

## ワークショップ

# あつまる！つながる！やってみる！



### 地域の活動目標

### 主な意見

- ・ 勇気を持って声をかけ、あいさつしよう
- ・ みんなにありがとうを言おう
- ・ お互いに興味をもとう
- ・ 街ぐるみで安心安全な仕組みを作ろう
- ・ 亀戸の文化を再構築して発信しよう
- ・ 小学校と地域の交流
- ・ 外国の方とコミュニケーションをとろう
- ・ 外国の人たちとの共存を実現
- ・ 困ったことがあったら助け合おう
- ・ 自分たちの町を大切に想おう
- ・ ゴミ拾い活動を積極的に行おう（大谷活動）
- ・ 誰もが集える居場所を作ろう
- ・ 障害者も認知症の方も社会参加できるまちにしよう
- ・ みんなで力を合わせて町会の行事を楽しく実行しよう

## 社協に期待すること 主な意見



- ・ 異文化、多世代等の居場所を作ってほしい
- ・ 海外の人々の生活文化や言葉を学ぶ場
- ・ 社協がもっと身近になるように、認知度を上げてほしい
- ・ 社協事務所の雰囲気をもっと明るく入りやすい雰囲気にして欲しい
- ・ 地域の多様な人に情報が届く仕組みを作って欲しい
- ・ 地域活動のきっかけ、知り合うきっかけ、知ろうと思うきっかけ等、様々なきっかけ作りをして欲しい
- ・ 土日の開所や開所時間を融通して欲しい。
- ・ 地域の保育園、幼稚園、学校などと連絡を取り、ボランティアに参加してほしい
- ・ つながりを作る情報発信をしてほしい



- ・ 社協をもっと地域にアピールし、会費をもっと分かりやすいものにして欲しい
- ・ 社協と地域のネットワーク
- ・ 財政面で社協の力を借りたい
- ・ あいさつポイント活動（ポイ活）
- ・ 障害のある方も参加できるサークル活動など  
つなぐ役割を担ってほしい



地域福祉活動計画策定委員 高崎健康福祉大学 健康福祉学部 岡田哲郎 講師

このひろばを3回行ってきた意味について考えていた。現代で地域でつながることはなかなか現実的ではない中で、その共同の作法、つながる工夫を皆さんが手繰り寄せようとしてきた経験だったのかなと思う。過去この地にあったやり方・形を引きあげようとしてこられたのだろうと思う。皆さんが望んでいらっしゃる挨拶・つながりは、今私が住んでいる小川町にはあるなと気付いた。実はそういうものに支えられているんだなということも感じた。それぞれなりわいがあり、携えている目的や国籍等違いはあるわけだが、みんなが生活をする「生活者」なんだ、みんながガードを下げていいんだ、それでつながりあっていいんだ、というちょっとしばらく忘れかけていた大切なことを再度掘み取ろうとしているんだろうと感じた。地域のことをここまで考えてくると、社協に期待することもいっぱい出てくるんだなと思った。そうなるちょっと心配なのは『無理しすぎないように』ということ。いつも私は自分に言い聞かせているのだが、あまり焦って前に進みすぎようとするとな隣の人の顔も見えなくなってくるもの。本質的なこと、大切なことを、ゆっくりでも積み重ねていくと、道がどんどん広がっていくと思う。

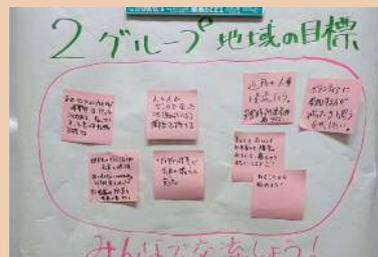
3回の「まちづくり話し合いひろば」では、「地域のいいところ」「地域の困りごと」「6年後こうなったらいいな。地域の目指す姿」「自分・地域・団体でできること」「この地域の活動目標」「社協に期待すること」など、地域福祉活動計画策定に向けて、皆様からのご意見を頂きました。ありがとうございました。この『まちづくり話し合いひろば』は、策定だけでなく、それぞれの地域のゆるやかなプラットフォームとなるように、地域の方の手により、まちづくり、地域づくりが推進されるよう社協が継続して開催していきます。  
(総務課総務担当 井上)

## 第3回深川北部 報告書

2023. 9. 27  
千石地区集会所  
13:30~15:30

# まちづくり 話し合い ひろば

参加者 13名



「まちづくり話し合いひろば」では、日頃から感じている地域の福祉課題や強みを念頭においていただきながら、「福祉のまちづくり」のアイデアを出し合います。そのアイデアを第5次地域福祉活動計画の中に盛り込むことで、実際の活動へとつなげ、広げていくための機会とします。

## あつまる！ つながる！ やってみる！



### 地域の活動目標 主な意見

- ・ 笑顔であいさつできる地域にしよう
- ・ 防災時「共助」できる地域、相互の地域が協力しあえるようにしよう
- ・ 障害者と健常者のへだたりをなくそう
- ・ 子ども・高齢者の方・障害者の方、交流することでお互いを知ろう
- ・ 世代を超えてコミュニケーションができる地域にしよう
- ・ 近所の人達と交流、知ることから始めよう
- ・ 地域コミュニティ活動（祭りなど）に参加しよう
- ・ 身近に困っている人がいたら助け合おう
- ・ ボランティア意識が高い地域にしよう
- ・ 誰でも暮らしやすくしよう
- ・ ボランティアに参加しよう

## 社協に期待すること 主な意見



- ・ 行政との間に入って区民に寄り添って欲しい
- ・ 社協がどんな事業をしているか情報発信して欲しい
- ・ 社協会員を増やして、活発な社協になって欲しい
- ・ 若い世代・働きざかりの世帯へのサポート（交流会）
- ・ 社協からの財政面での援助や、物資や金銭を提供してくれる企業につないでほしい
- ・ 誰かとつながりたいと思っている人がとりあえず一歩踏み出せるような企画
- ・ 社協活動レポートを発行し、存在価値をPRしてほしい（区民が関心を持つ）
- ・ 区内には高層マンションがあり、避難先として社協が間に入るなどつなぎ役に期待
- ・ 空き家の借り上げや、保証人になって住居支援して欲しい
- ・ 活動場所や普及啓発できるところなど、地域資源を教えて欲しい
- ・ いろんな世代、いろんな人達が集まって話せる場所や機会を作ってほしい



- ・ 交流の場と企画の提供
- ・ コネクトの役割をしていただきたい
- ・ 区内企業との社会貢献、施策の企画

地域福祉活動計画策定委員 高崎健康福祉大学 健康福祉学部 岡田哲郎 講師



「ゆんたく」はご存知ですか？沖縄で「おしゃべり」という意味がある。最初の皆さんがやってきたかしまったおしゃべりではなく、後半の打ち解けた感じのおしゃべりを言う。民宿で「ゆんたく」と言うと、知らない宿泊者同士が食卓を囲んで、食べて、お酒も飲んで、気がつけば知らないうちに人が好きになっている、近づきたくなくていい、そして自然につながりができていくというもの。

計3回このまちづくり話し合いひろばの場をやってきた。考えてみると「ゆんたく」の場を作った取り組みでもあったのかなと思う。地域で人と人が出会うこと、ガードを下げて付き合うということができない世の中だが、それを作ってきた。いわば共同の作法・工夫を導き出そうとしている。それも昔のやり方を押し付けるのではなく、今の新しい時代に合わせてみんなで作っていくんだという出発点をここで持ったのかなという風にも思う。

3回の「まちづくり話し合いひろば」では、「地域のいいところ」「地域の困りごと」「6年後こうなったらいいな。地域の目指す姿」「自分・地域・団体でできること」「この地域の活動目標」「社協に期待すること」など、地域福祉活動計画策定に向けて、皆様からのご意見を頂きました。ありがとうございました。この『まちづくり話し合いひろば』は、策定だけでなく、それぞれの地域のゆるやかなプラットフォームとなるように、地域の方の手により、まちづくり、地域づくりが推進されるよう社協が継続して開催していきます。（総務課総務担当 井上）



## イメージ挿絵



### 【交通案内】

#### ●東京メトロ東西線

- 〔木場駅〕1番出口から徒歩12分
- 〔東陽町駅〕1番出口から徒歩15分

#### ●都営バス

- 〔JR総武線〔錦糸町駅〕南口下車
- 〔錦13甲〕 晴海埠頭行き〔東陽6丁目〕下車1分
- 〔錦13乙〕 深川車庫行き〔東陽6丁目〕下車1分

### 社会福祉法人

## 江東区社会福祉協議会

〒135-0018 江東区東陽6-2-17 江東区高齢者総合福祉センター 2F

■総務課	TEL (3647) 1895	FAX (3647) 5833
■管理係		
■総務係		
■介護保険担当	TEL (3647) 5831	FAX (3647) 5833
■障害支援区分担当	TEL (5683) 5011	FAX (3647) 5833
■福祉サービス課		
■福祉サービス係	TEL (3647) 1898	FAX (3699) 6266
■在宅サービス係		
■ふれあいサービス	TEL (5683) 1571	FAX (5683) 1570
■ファミリーサポートセンター	TEL (5683) 1573	FAX (5683) 1570
■地域福祉推進課 地域支援係	TEL (3640) 1200	FAX (3699) 6266
■権利擁護センター〔法人・個人〕	TEL (3647) 1710	FAX (5683) 1570
■ボランティア		
■地域貢献活動センター	TEL (3645) 4087	FAX (3699) 6266

ホームページ <https://koto-shakyo.or.jp/>